

実施報告書



Heart of Tajimi

—たじみ市民討議会2010—

2010年 9月



社団法人 多治見青年会議所

目次

はじめに

概要	3
I 報告書の位置づけ	
II 実施に関する協定の締結	
III たじみ市民討議会の目的	
IV たじみ市民討議会の実施	
V 市民提案の内容	
第1章 総論	6
I 市民討議会とは	
II プラームクスツェレとは	
III 多治見市における市民参加推進の取り組み	
IV たじみ市民討議会実施に関する協定書	
V たじみ市民討議会当日の流れ	
第2章 話し合いの結果と市民からの提言	16
I 市民からの提言	
II テーマごとの話し合いシートの内容	
第3章 たじみ市民討議会の検証と評価	52
I たじみ市民討議会の有効性	
II たじみ市民討議会の手法の特徴	
III 開催準備から報告書提出までの記録	
IV 検証と評価	
第4章 展望	67
I たじみ市民討議会の展望	
II 今後の取り組みに対する情報提供	
アンケート	69
写真集	75
参考文献	79

はじめに

この報告書は、多治見市と社団法人多治見青年会議所が、たじみ市民討議会実施における協定書を結び、～私たちでつくる安心、愛着のもてる「住みやすいまち」たじみ～をテーマに実施した「Heart of Tajimiーたじみ市民討議会2010ー」の結果を集計・分析し、市民提言として多治見市に提出すること、さらに市民協働のまちづくりを推進していくにあたり、今後の展開を考慮しマニュアル化することを目的にまとめたものです。

運営は公平・公正な運営を担保するために、多治見市、社団法人多治見青年会議所とボランティアスタッフ（昨年の市民参加者）が主体となり実施いたしました。

この「Heart of Tajimiーたじみ市民討議会2010ー」は、ドイツで行われているプラークスツェレや日本各地での市民討議会の事例を参考にし、市民の平均的な意見を拾い上げ市政に反映していただくことで、市民の行政に対する参加意識を醸成していこう、という取り組みでした。

市政に対して市民の声なき声をくみ上げ、また市民参加意識の向上による参加拡大が期待できるこの取り組みは多くの市民の皆様より反響をいただきました。20歳以上の市民を対象に完全無作為抽出により1,000人に参加依頼書を送付したのに対し、我々が考えていた昨年の想定を上回る62人からの参加同意があり、当日来場いただいた47人に参加いただきました。

2010年6月26日、27日の2日間で多治見市産業文化センターにて実施され、参加者が7グループ（1グループ6～7人）に分かれて、4つの討議テーマの話し合いに対して熱心な討議が行われ、多くの意見や考えを聞くことができました。そして、市民の皆様は決して市政に無関心なのではなく、機会があれば市民参加をしたいと考えていることが分かりました。

この報告書を市民提言として多治見市に提出するにあたり、この内容を多治見市の『私たちでつくる安心、愛着のもてる「住みやすいまち」たじみ』における施策に反映していただくことを参加市民に代わりましてお願いいたします。

市民協働のまちづくりという多治見市のビジョンに対して、市民、行政、各種団体が主体的に参画し、ベクトルをあわせて、行政課題に向き合い一緒に考える機会をつくることによって、「自分たちのまちは、自分たちで考え守ろう」という自治が形成されること、そして「明るい豊かな多治見市」に向けて、この手法がさらに発展し継続されることを期待します。

2010年9月
社団法人 多治見青年会議所
社会開発委員会
委員長 亀田大介

概要

I. 報告書の位置づけ

本報告書は、社団法人多治見青年会議所と多治見市が締結した「Heart of Tajimiーたじみ市民討議会2010ー」（以下、たじみ市民討議会という。）の実施に関する協定書にもとづき、社団法人多治見青年会議所と多治見市が共催で「たじみ市民討議会」を実施し、そこで行われた話し合いの結果を市民提言として多治見市に施策への反映を求めるとともに、市民討議会という新たな市民参加の取り組みについて検証・評価したものである。

本報告書は、上記協定書にもとづき社団法人多治見青年会議所が多治見市に提出するものである。

II. 実施に関する協定の締結

「たじみ市民討議会」は、2010年5月に締結された実施に関する協定書にもとづき実施された。実施に関する協定書では、たじみ市民討議会の実施およびその手法の効果の検証・評価に関し、社団法人多治見青年会議所と多治見市との間の関係や役割分担、相互協力の内容などを定めることとした。

III. たじみ市民討議会の目的

多治見市では、市民参加の手法として、「地区懇談会」や「パブリックコメント」など、数々の取り組みを行ってきました。今回はドイツの市民参加の手法である「プラーヌクスツェレ」を参考にして、たじみ市民討議会を実施した。

その目的は、これまで行政に声を届けるきっかけが少なかったサイレントマジョリティーと呼ばれる一般の市民の市政への参加を促し、その声を行政に届け、まちづくりにいかすことで、市民の行政への参加意識の高揚と、行政と協働のまちづくりを推進することである。

IV. たじみ市民討議会の実施

たじみ市民討議会は、2010年6月26日（土）・27日（日）の2日間にわたり多治見市産業文化センター5F大ホールにおいて開催された。

参加者は、無作為抽出により20歳以上の市民1,000人に参加を呼びかける依頼書を送付し、依頼を承諾した市民62人を対象に行った。（当日参加者47人）なお、参加者には、謝礼を支払うこととした。

たじみ市民討議会の当日は、47人の参加者を得て、～私たちでつくる安心、愛着のもてる「住みやすいまち」たじみ～をメインテーマとし、「安心な生活をするために地域、家庭でできる防災対策とは?」、「市民がまちに誇りと愛着をもつためには?」、「これからはどのような地域コミュニケーションのあり方が必要ですか?」、「安心で愛着のもてる「住みやすいまち」にするには?」の4つの個別テーマでそれぞれ話し合いを行った。話し合いにあたっては、7グループ(1グループ6人～7人)に分かれて、話し合いごとにメンバーを入れ替えることとした。毎回、グループごとに3つ以内に意見をまとめ、意見の傾向を見るため、その意見に対して、参加者が投票を行うこととした。

V. 市民提言の内容

たじみ市民討議会の話し合いの結果である市民提言は、次のとおりである。

1. 討議テーマ「安心な生活をするために地域、家庭でできる防災対策とは?」

【市民提言】

防災訓練、災害指導、携帯電話を利用した災害情報の伝達の具体的な手法の企画や、全ての地域の市民が情報の周知ができるシステムの充実を求めます。

安心な生活をするためには、防災訓練や、災害指導、携帯電話を利用した災害情報の伝達などの具体的な企画が必要である。また、転入者を含む全ての地域の市民に対して行政は多治見市で行なわれている防災の知識を提供することも求められている。その一方で、家庭でできる防災対策として、日頃から近所同士の交流を深め、防災意識を高めることで、自らの命は自らが守り、防災グッズの準備や家具の固定などの普及を薦めることも必要である。

2. 討議テーマ「市民がまちに誇りと愛着をもつためには?」

【市民提言】

多治見の魅力の情報発信や企業を誘致して雇用の安定、また、市民の利便性の向上及び幅広い年齢層の方々が参加できる、ボランティア活動できる場の企画を求めます。

市民がまちに誇りを持つためには、暑い多治見だけでなく、歴史と自然と文化をPRできるような情報発信や他地域との交流会を通じて多治見を再認識する場を設けることが必要である。また、地域を活性化するために企業誘致をして雇用の安定を図る必要がある。そして市民の利便性の向上に関するものとして高齢者、車を運転しない人への公共交通機関の充実が求められている。また、老若男女誰でも参加できる奉仕活動の企画や地域のボランティア活動を続けられるよう、楽しい企画をつくることも求められている。

3. 討議テーマ「これからはどのような地域コミュニケーションのあり方が必要ですか？」

【市民提言】

情報を活用しての地域コミュニケーションの企画づくり及び、地域のリーダー的な人材を育成しコミュニティの充実、またイベントを通じて各地域での交流を図る企画を求めます。

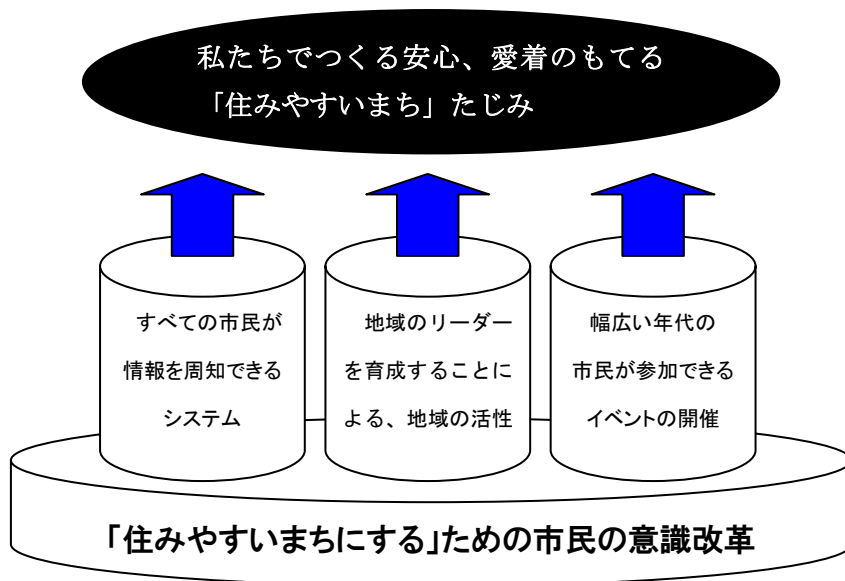
情報を使つてのコミュニケーションに関するものとしてシニア学校やインターネットができるサイトの作成や市民から市への要望が出せる仕組みをつくる（目安箱等）等の意見が寄せられた。また、リーダー的な人格を取り入れて地域が活性化するようなシステムをつくり、コミュニティの充実を求める意見が寄せられた。そして子供からお年寄りまで楽しめるイベントを通じて各地域での交流を図る企画が求められている。

4. 討議テーマ「安心で愛着のもてる「住みやすいまち」にするには？」

【市民提言】

安心で愛着の持てる「住みやすいまち」にするために、防災意識の向上、地域コミュニティの充実、各地域の活性化に繋がる市全体で実施する市民参加型のイベントの企画、開催を求めます。

幅広い年代の市民が参加できる特色のあるイベントの開催を望む意見が多く寄せられた。また、そういったイベントに市民が参加しやすいように、交通手段が無い地域等、交通網の整備を求められている。防災意識の向上が、まちの安全、安心に繋がり、地域コミュニティの充実がまちへの誇り、愛着に繋がる。そのために、幅広い年代の市民参加型のイベントの企画、開催することで、地域の活性化、市民意識改革をする必要がある。



第1章 総論

I. 市民討議会とは

これまで市の方針や施策を決める場面において、行政が実施されてきた「市民の声を聞く仕組み」として、地区懇談会やパブリックコメントなどに取り組んでいます。しかしこれらに参加する市民は、それぞれの分野に興味をもち、時間的にも比較的余裕のある限られた市民の意見になる懸念もあります。社会全体の市民、無関心層やサイレントマジョリティー（物言わぬ多数派）といった市民の意見を取り込んだ、多治見市民の平均的な意見をいただき、「市民の声・社会の声」として行政にいかしていく仕組みです。

この市民討議会は、無作為に抽出した市民の方々に参加依頼書を出し、その中から参加の意思表示をいただいた方々に、テーマに沿って多治見市の課題について話し合いをしていただきます。討議の前に公正な情報提供を行った上で、小グループに分かれ討議いたします。そして、グループごとに意見を取りまとめ、そのグループごとの意見に対して全員で投票します。結果については多数意見だけでなく、少数意見を含めた全ての意見と得票数をとりまとめ、今後の行政に反映されるよう、「市民提言」として提言書を市に提出します。

◆市民討議会の特徴◆

1. 参加者の無作為抽出

住民基本台帳から無作為に抽出した市民の方々に参加依頼書を郵送し、参加希望者を募ります。

2. 参加者の有償性

無作為抽出により選ばれた参加者には、報酬を支給します。

3. 専門家による情報提供

討議（話し合い）の前に、行政担当者などから現状についての情報提供を行います。

4. 参加者が討議・意見集約

参加者がグループ別討議により意見を出し合い、意見集約・合意形成をします。

5. 討議結果のまとめ・公表

討議結果は市への提案書としてまとめ、その内容は市の広報誌やホームページなどで公表します。

Ⅱ. プラヌクスツェレとは

プラヌクスツェレ（独：Planungszelle:計画細胞）は、ペーター・C・ディーネル（Peter C. Dienel）ドイツ・ヴパタール大学名誉教授により1970年代に考案された市民参加の手法である。ドイツでは、1990年のドイツ統一後、地方公共団体において住民投票制度が導入されていったことに伴い、直接民主主義に対する認識が高まった。このような潮流の中で、市民参加の手法の1つとしてプラヌクスツェレが注目された。現在では、スペインやオランダなどでも取り組みがなされている。

プラヌクスツェレは、行政機関がプラヌクスツェレで検討する内容を示して、大学等公平・中立的な実施機関に委託して行う。受託者である実施機関において、プログラムを作成し、プラヌクスツェレを実施する。参加者は、地域から無作為に選ばれた市民から募り、実施プログラムに沿って少人数で話し合いを行う。そこで出された意見を集約して広報を行うとともに、行政機関に答申し、市民の声をまちづくりに反映させる手法である。なお、参加者には、仕事として取り組んでもらうため、報酬を支払う。

この手法の最大の特徴は、今までの公募による市民会議と異なり、基本的に16歳以上の市民から「無作為抽出」により参加者を募ることである。このため、参加者は、限られた特定の人の集団や専門家ではなく、ほとんどの場合、テーマに関し直接の当事者ではない一般の市民である。また、男女比率、年齢や職業などの構成が、その地域の構成と同様の傾向を示すことになり、その意味において参加者はその地域の代表者であるといえる。

プラヌクスツェレにおいては、話し合いの数は4日間で16コマとし、参加者はコマごとに設定される個々のテーマに沿って、公平・中立な立場、または賛成、反対両方の立場による専門家等からの情報提供を受け、その後1グループ5人（通常5グループ25人で行う）で、参加者だけで話し合いを行う（情報提供を含め1コマ90分）とされる。話し合いは、特定の参加者の意見だけが反映されることのないよう、コマごとにメンバーを入れ替えて行う。

このような少人数による話し合いをコマごとにメンバーを入れ替えながら行うことで、他の参加者の意見を十分聞き、お互いの体験や視点を尊重しながら、合意形成を行うことが可能になる。このようにして得られたグループの意見に対して、全員で投票を行うが、話し合いと投票を経て得られた結論は、利権誘導や専門家の意見に偏った形にはならないものとなる。

他の市民参加の手法に比べてコストがかかる点と開催の準備や最終報告に時間がかかる点に問題があるものの、サイレントマジョリティーと呼ばれる一般の市民の声なき声を抽出できる方法として、きわめて有効であると評価できる。また、プラヌクスツェレの参加者が、開催後に地域社会に対する参画意識が非常に高まる点も評価できる。

Ⅲ. 多治見市における市民参加推進の取り組み

1. 制度の整備

(1) 多治見市市政基本条例を制定（平成 19 年 1 月 1 日施行）

市の最高規範としているこの条例で、市民の市政参加について次のように規定された。

- ① 市民は主権者として市政に参加する権利があること
- ② 多くの市民の参加機会を保障するため、多様な参加手法を用意しなければならないこと
- ③ 重要な計画の策定や見直し、条例などの制定や改廃、事業の選択や実施、政策評価には市民の参加を図ること

(2) 多治見市市民参加条例を制定（平成 20 年 1 月 1 日施行）

市政基本条例に基づき制定したこの条例では、市民参加についての理念や原則、市民参加の手続きに必要な事項を定め、市民が市政に参加することを保障している。

- ① 市政基本条例で市民参加を図るべき事例について、対象をより具体的に規定
- ② 市民参加の方法について具体的に提示し、その方法をさらに詳細に規定
- ③ 応答義務や市民活動との連携協力を規定

2. 今まで行ってきた市民参加手法

(1) 地区懇談会

平成 8 年度に初めて地区対話集会として開催した地区懇談会は、平成 13 年度からは年 2 回として、市内 13 地域（小学校区単位）で地域市民との意見交換を行っている。前期は、全地域統一のテーマで、後期は地域ごとに前もって出されたテーマで開催している。地区懇談会での意見交換の内容は、ホームページに掲載するとともに、該当地域へ回覧している。

平成 21 年度は、前期 578 人、後期 470 人の計 1,048 人、1 会場当たり 40 人が参加した。



▲地区懇談会で説明する市長(H21.6)

(2) 市民意識調査

市政の満足度、優先すべき施策、生活実態などを把握するため、1 年おきに市民意識調査を実施している。市の総合計画に合った質問項目で、無作為抽出した 16 歳以上の市民 2,000 人に調査票を郵送するとともに、広報紙にも同様の調査票を掲載し郵送回収している。結果は、それぞれの施策立案や評価などの参考としている。

(3) パブリック・コメント手続

政策分野で基本となる計画策定や条例や規則等の制定・改廃、事業選択などの時には、必ずパブリック・コメント手続を行うよう独自の条例（平成20年1月1日施行）を制定し、市民が意見表明を行うことができる機会を確保している。平成21年度の実施件数は111件で、合計94件の意見が寄せられた。

(4) 審議会等への参加

計画策定時や事業の選択・評価時に開催する審議会等には、原則として公募委員を加えることとしている。また、性別や年代に配慮している。

(5) 市長への提言

年1回、広報紙（広報たじみ）に提言用紙を刷り込み、市民から市政全般に対する提言を募集している。平成21年度は43件の提言をいただき、関係課で提言への対応を検討した。なお、平成22年度から、市役所1階ロビーに常設の提言箱を設置した。

3. 課題

以上のように、これまでさまざまな市民参加の手法を行ってきたが、参加する市民、意見表明する市民、公募する市民は、どうしても偏ってしまう。市民参加を謳いながらも、必ずしも市民多数の意見となっているのかは疑問であった。

このような背景のもと、市民の無作為抽出や参加者への謝礼金を支払うなど、参加の動機付けを行った市民討議会は、市民参加のもつ課題に対して、まったく新しい取り組みとなった。

IV. 実施に関する協定書

たじみ市民討議会の実施およびその手法の効果の検証・評価に関し、（社）多治見青年会議所と多治見市との間の関係や役割分担、相互協力の内容を定めたものである。また、市民討議会実施後に市に提出する報告書に記載された内容について、市は真摯に検討し、市政に生かすよう務めることが定められている。

「H e a r t o f T a j i m i
ーたじみ市民討議会2010ー」
の実施に関する協定書

「Heart of Tajimi -たじみ市民討議会 2010-」

の実施に関する協定書

社団法人 多治見青年会議所（以下「JC」）と多治見市（以下「市」）は、無作為抽出による市民がまちづくりの課題を討議し、その声を市政に反映させるために「たじみ市民討議会 2010」をともに実施し、併せてその手法の効果を検証・評価するために、次のとおり協定を締結します。

1. 協定の目的

本協定は、「市民討議会」の実施及びその手法の効果の検証・評価に関し、JC と市との間の関係や役割分担、相互協力の内容などを定めるものです。

2. 協働に関する原則

JC と市は、協働の精神に基づいて、お互いに次の原則を遵守します。

- (1) お互いが対等なパートナーとしての関係を保つように心掛けます。
- (2) お互いの立場を理解・尊重し、自由に意見を交換できる関係をつくります。
- (3) お互いの活動を理解し、その主体性・自主性を尊重します。
- (4) 個人情報の保護に配慮しながら、協働の過程や結果などの情報を公開し、市民の理解を得るように務めます。
- (5) 多様な市民の意見を集め、中立性・公平性を担保します。
- (6) 成果の手法について、ともに検証・評価します。
- (7) 「市民討議会」の成果について公開します。

3. 役割と責務

(1) JC の役割と責務

ア 広報活動に関すること

JC は、「市民討議会」を広く周知するために、広報活動を行います。

イ 報告書の作成に関すること

JC は、「市民討議会」の内容及びその手法について報告書にまとめ、市長へ提出します。

ウ 個人情報の保護に関すること

JC は、「市民討議会」を実施する上で、知り得た情報のうち、プライバシーに関するものについて、個人情報の保護を行います。

エ 経費の負担に関すること

JC は、別に定めるところにより「市民討議会」に係る経費の一部を負担します。

オ 運営に関すること

JC は、「市民討議会」の研究・学習を行い、運営を担います。

(2) 市の役割と責務

ア 広報活動に関すること

市は、「市民討議会」を広く周知するため、市広報紙等を活用します。

イ 参加候補市民のリスト抽出及び参加依頼に関すること

市は、住民基本台帳から参加候補市民の無作為抽出及び、参加依頼書の発送と参加承諾書の受領を行います。

ウ 情報提供に関すること

市は、JC に対し、「市民討議会」の実施に必要な情報の収集、提供を行います。

エ 場所の提供に関すること

市は、討議会の開催、準備に必要な会議室、事務室の確保を行います。

オ 経費の負担に関すること

市は、別に定める経費を予算の範囲内で負担します。

カ 報告書の検討に関すること

市は、3(1)イの報告書に記載された内容について真摯に検討し、市政に生かすよう努めます。

4. 協定の有効期限

本協定は、JC と市の合意をもって発効し、平成 22 年 12 月 28 日を有効期限とします。

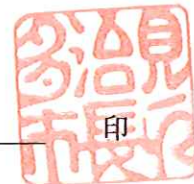
5. その他

本協定に定めのない事項で、「市民討議会」を実施する上で必要と認められるものについては、JC と市とが協議して定めるものとします。

平成 22 年 5 月 13 日

多治見市長

古川 雅典



社団法人 多治見青年会議所
理事長

鈴木 周作



V. たじみ市民討議会当日の流れ

1. 参加者

たじみ市民討議会の参加者の決定は、20歳以上の市民を対象に住民基本台帳から無作為抽出を行い、選ばれた1,000人に参加を呼びかける依頼書を送付するところから始めた。当初の予定参加数は50人であったところ、依頼を承諾した市民は、62人であり、たじみ市民討議会当日の参加者は47人であった。

2. テーマ

今回のメインテーマは～私たちでつくる安心、愛着のもてる「住みやすいまち」たじみ～とした。また各討議テーマは、

第1回 「安心な生活をするために地域、家庭でできる防災対策とは？」

第2回 「市民がまちに誇りと愛着をもつためには？」

第3回 「これからはどのような地域コミュニケーションのあり方が必要ですか？」

第4回 「安心で愛着のもてる「住みやすいまち」にするには？」

の4つとした。

3. 情報提供

1日目は、第1回話し合いのみを行ったが、討議テーマ「安心な生活をするために地域、家庭でできる防災対策とは？」の情報提供を多治見市役所 情報防災課 水野康次郎さんに行っていた。

2日目は、3回の話し合いを行い、討議テーマ「市民がまちに誇りと愛着をもつためには？」の情報提供を多治見市文化振興事業団 片田 充さんに、討議テーマ「これからはどのような地域コミュニケーションのあり方が必要ですか？」の情報提供を多治見市役所 市民文化課 社本武生さんに行っていた。

4. 話し合いの方法

話し合いは、7グループ（1グループ6～7人）で行われ、テーマごとにグループのメンバーを入れ替えた。

話し合いを行うにあたり、それぞれのグループに配置されたスタッフ（補助係）による話し合いのルールの説明や自己紹介の後、グループの全員が「まとめ係」「進行係」「発表係」となるよう役割を決めた。話し合いを行っている間に、各自の意見を付箋に記入して、「話し合いシート」に張り付けていき、それを分類整理して、投票の対象となる「まとめ」（3つ以内）と、「残したい意見」を「話し合いシート」に記入することとした。話し合いの時間は、スタッフによる説明やまとめ（「話し合いシート」の記入）を含めて60分とした。

●まとめ係

付箋に書かれた意見を、メンバーの同意のもとに1～3つに分類し、グループの意見としてまとめる係

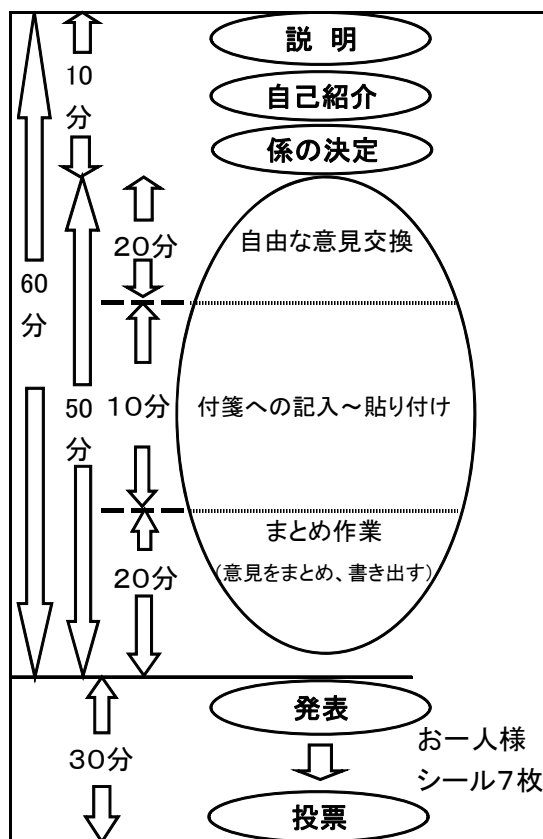
●進行係

グループ内で時間管理を行う係

●発表係

話し合いで出されたまとめ1～3と、残したい意見を発表する係

話し合いの流れ



話し合いシート

グループ名	メンバー
(話し合いのテーマを記入)	
作業スペース	
まとめ1	投票欄
まとめ2	投票欄
まとめ3	投票欄
残したい意見	投票欄

5. 発表と投票

1回目～4回目の話し合いの後にそれぞれ発表と投票を行った。

投票は、テーマごとに一人につき7枚のシールを用いて、それぞれ参加者が適当だと思うアイデアに対して、自由に投票を行うこととした。

Heart of Tajimi ーたじみ市民討議会 2010ー 2日間のスケジュール

6月26日(土)【1日目】		6月27日(日)【2日目】	
(参加者47人)		(参加者47人)	
		9:40~10:10	情報提供「市民がまちに誇りと愛着をもつためには？」
		10:10~11:10	第2回話し合い 「市民がまちに誇りと愛着をもつためには？」
		11:10~11:30	発表
		11:30~12:30	投票・休憩(昼食)
		12:30~13:00	情報提供「これからはどのような地域コミュニケーションのあり方が必要ですか？」
13:00~13:30	主催者あいさつ 趣旨・進め方の説明	13:00~14:00	第3回話し合い 「これからはどのような地域コミュニケーションのあり方が必要ですか？」
13:30~14:00	情報提供「多治見市における防災とまちづくりの取り組みについて」	14:00~14:20	発表
14:00~15:00	第1回話し合い 「安心な生活をするために地域、家庭でできる防災対策とは？」	14:20~14:50	投票・休憩
15:00~15:15	休憩	14:50~16:10	第4回話し合い 「安心で愛着のもてる「住みやすいまち」にするには？」
15:15~16:00	発表・投票	16:10~16:30	発表
		16:30~17:00	投票・休憩・アンケート
		17:00~17:20	結果の扱い方・反映の仕方 報告書の説明

第2章 話し合いの結果と市民からの提言

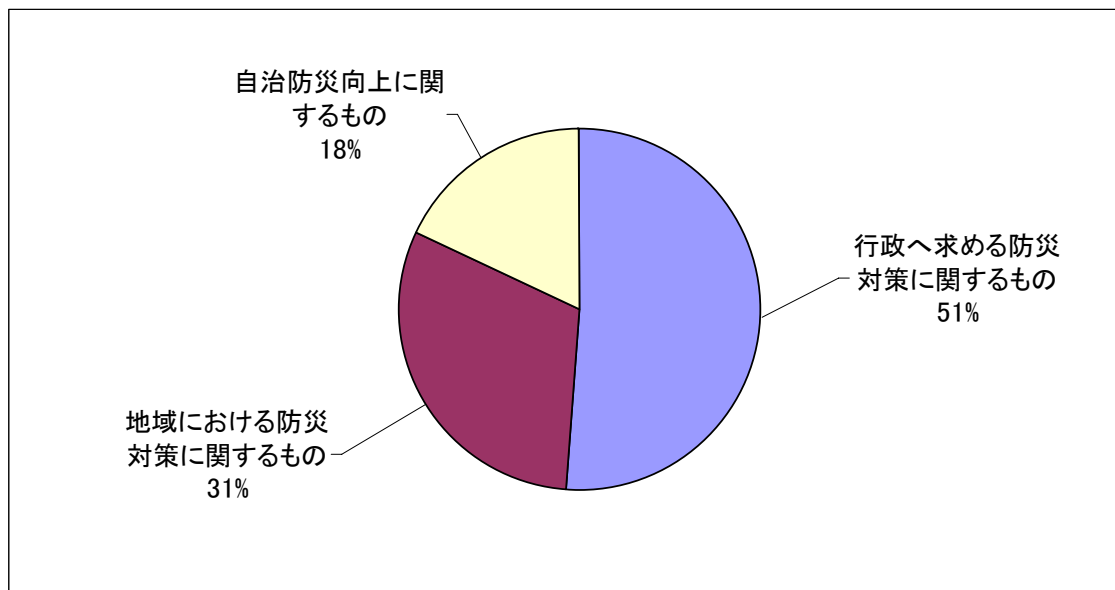
I. 市民からの提言

たじみ市民討議会の話し合いは4回行われたが、大変内容の充実したものであった。その結果である市民提案は、次のとおりである。

1. 討議テーマ「安心な生活をするために地域、家庭でできる防災対策とは？」に対し、以下を提言いたします。

防災訓練、災害指導、携帯電話を利用した災害情報の伝達の具体的な手法の企画や、全ての地域の市民が情報の周知ができるシステムの充実を求めます。

- ・市民が喜んで参加できる防災訓練の企画を望みます。
- ・小・中・高生への災害指導の企画を望みます。
- ・転入者に対して地域・行政は、多治見市で行なわれている防災の知識を提供することを望みます。
- ・携帯ショップにて緊急メール登録のあっせんを望みます。



【分類のポイント】

防災訓練、災害指導、携帯電話を利用した災害情報の伝達など行政へ求める防災対策に関するもの。町内会単位のコミュニティーを通じての地域における防災対策に関するもの。防災グッズの準備、家具の固定など家庭内での自治防災向上に関するものがあった。

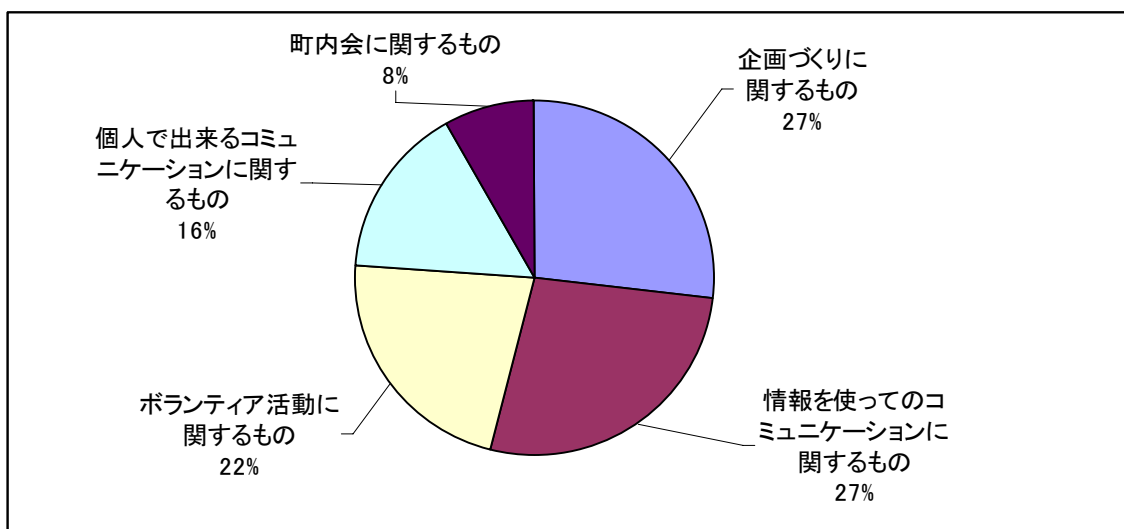
討議テーマ「安心な生活をするために地域、家庭でできる防災対策とは？」

いただいたご意見		得票数	計	得票率
○行政へ求める防災対策に関するもの				
市民が喜んで参加できる防災訓練を企画する	22	134	51%	
小・中・高生への災害指導を徹底する	22			
転入者に対して、地域・行政は防災知識を提供する	16			
携帯ショップにて緊急メール登録の斡旋	15			
災害情報の伝達手段として携帯電話・ホイッスルなどを支給して、地域の専任災害担当者との連絡網を作る	13			
行政から受けられる支援と個人で準備しなければいけないマニュアルの作成	13			
防災無線の設置	11			
災害時を想定した対策項目を啓蒙し、家具転倒等、耐震対策を促す	8			
各家の寝室位置を示すマップを作成し、市が管理して災害時に活用する	7			
自主防災組織セミナーへの参加、消火栓の場所の明示	7			
○地域における防災対策に関するもの				
災害時に高齢者をケアする為常日頃からコミュニケーションをする	15	83	31%	
地域のコミュニケーションをして防災意識を高める	13			
防災マップを活用し地域の危険箇所を町内会などで確認し合う	12			
日頃から近所同士の交流を深め、防災意識を高める	11			
声掛け(家族や向こう三軒両隣制度)	11			
地域のコミュニティー(マンション、アパート住民も含めた近所づきあいの復活)	10			
町内会の参加していない人にも広報が配布されるようにする	8			
地域で防災カレンダーの作成	3			
○自治防災向上に関するもの				
飲料水、防火用水(風呂水)を確保する	12	48	18%	
災害が発生されるものとして個人で準備する	7			
家庭内での防災意識を話し合う	7			
自らの命は自らが守る(防災グッズの準備、家具の固定)	5			
家庭内の家具の整理を行うと共に家具の固定を薦める	5			
自分で家の中でできること(タンスの固定・整理整頓)	4			
家具の固定、部屋の中の整理整頓、熱煙センサーの設置	4			
避難場所の確認(家族で集まる場所の確認、安否の確認)	4			
合 計	265	265	100%	

2. 討議テーマ「市民がまちに誇りと愛着をもつためには？」に対し、以下を提言いたします。

多治見の魅力の情報発信や企業を誘致して雇用の安定、また、市民の利便性の向上及び幅広い年齢層の方々が参加できる、ボランティア活動できる場の企画を求めます。

- ・高齢者、車を運転しない人への公共交通機関の充実を望みます。
- ・多治見の魅力の発信をするためにメディアの活用、他地域との交流の場を設けることを望みます。
- ・地域を活性化するために企業を誘致して雇用の安定を望みます。
- ・市民の意識を改革するために、老若男女誰でも参加できるボランティア活動できる場の企画を望みます。
- ・環境を向上させるために自然環境の保全と強化を望みます。



【分類のポイント】

高齢者や車を運転しない人への交通機関の整備など市民の利便性の向上に関するもの。市内一斉清掃の実施や歴史と自然と文化をPRするなど多治見の魅力発信に関するもの。企業の誘致やボランティア参加者へのポイント発行など、地域活性化に関するもの。奉仕活動の企画や町内美化を進めるなど、市民の意識改革に関するもの。自然環境の整備など環境の向上に関するもの。目安箱の設置や意識調査を実施するなど、問題点の解決に関するものがあった。

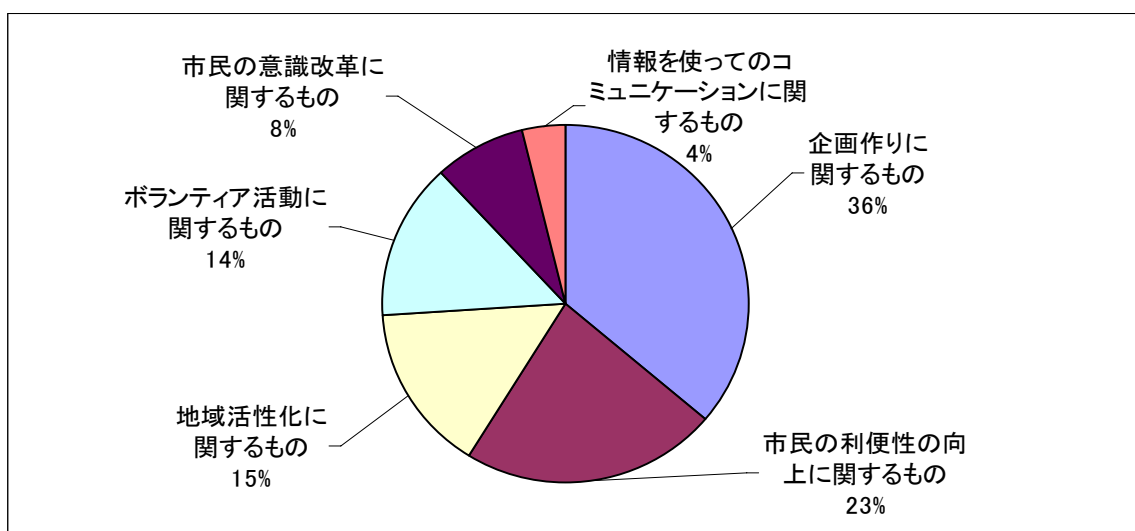
討議テーマ 「市民がまちに誇りと愛着をもつためには？」

いただいたご意見		得票数	計	得票率
○市民の利便性の向上に関するもの				
高齢者・車を運転しない人への公共交通機関の充実	22	77	27%	
人に優しいまちづくり(高齢者に対する車の代行運転ボランティア・バスに代わる交通手段)	17			
桔梗バスを増やす	16			
市民参加の呼びかけ(交通機関の整備)	12			
住みやすいまちづくり・病院の充実(車が無い人への対応)	10			
○多治見の魅力発信に関するもの				
きれいなまちづくり、市内一斉清掃の実施	13	75	26%	
気温が暑いだけでなく、それを越えるハートの熱さをアピールしてメディアを活用する	12			
他地域との交流会を通して多治見を再認識する場を設ける	11			
情報の共有・広報活動の広げ方(駅・病院等に掲示する・公園等のPR)	11			
多治見市の歴史・文化を市民に知ってもらう(修道院・永保寺等の歴史を発信)	10			
暑い多治見市だけでなく、歴史と自然と文化をPRできるような多治見をつくる	10			
広報で文化交流事業を解りやすく紹介し、若い世代にも積極的に参加できるよう働きかける	6			
多治見を対外に発信する	2			
○地域活性化に関するもの				
企業を誘致して雇用の安定を図る	19	51	18%	
ボランティア参加者へのポイントの発行	14			
地場産業の活性化(陶器産業の活性化)	13			
地場産業(陶器)の活性化 試験場のPR	5			
○市民の意識改革に関するもの				
老若男女誰でも参加できる奉仕活動を企画する	10	42	15%	
町内美化を積極的に進め、住み良いまちを目指す	7			
市民が参加できる行事(祭り等)を行い幅広く意見を募集し、繁栄させる	7			
子供から高齢者までコミュニケーションがとれるような場所と機会を多くして人との交流を図る	7			
地域のボランティア活動を続けられるように、楽しい企画をつくる	6			
地域の行事(盆踊り等)を子供達に伝えていく	5			
○環境の向上に関するもの				
自然環境(土岐川)蛍の保全と強化	22	34	12%	
子供が育つ環境をつくる	12			
○問題点解決に関するもの				
市民の不安・不満を解消させる(目安箱システム)	6	8	3%	
現状の問題点に関しての意識調査を実施する	2			
合計	203	287	100%	

3. 討議テーマ「これからはどのような地域コミュニケーションのあり方が必要ですか？」に対し、以下を提言いたします。

情報を活用しての地域コミュニケーションの企画づくり及び、地域のリーダー的な人材を育成しコミュニティの充実、またイベントの企画を通じて地域での交流を図る企画を求めます。

- ・多治見の魅力を再認識するために、市民に向けた情報発信を望みます。
- ・情報を使つてのコミュニケーションを図るために、シニア学校やインターネットでコミュニケーションができるサイトの作成を望みます。
- ・老人とのコミュニティを図るために、民生委員の数を増やすことを望みます。



【分類のポイント】

行政と市民が情報伝達をするなど情報を使つてのコミュニケーションに関するもの。地域のリーダーが活動しやすい環境をつくる等、ボランティア活動に関するもの。自主的に声掛けをする等、個人でできるコミュニケーションに関するもの。市民が集まれる場所の整備や子供からお年寄りまで参加できる楽しい企画をする等、企画づくりに関するもの。町内会のあり方を見直す等、町内会に関するものがあった。

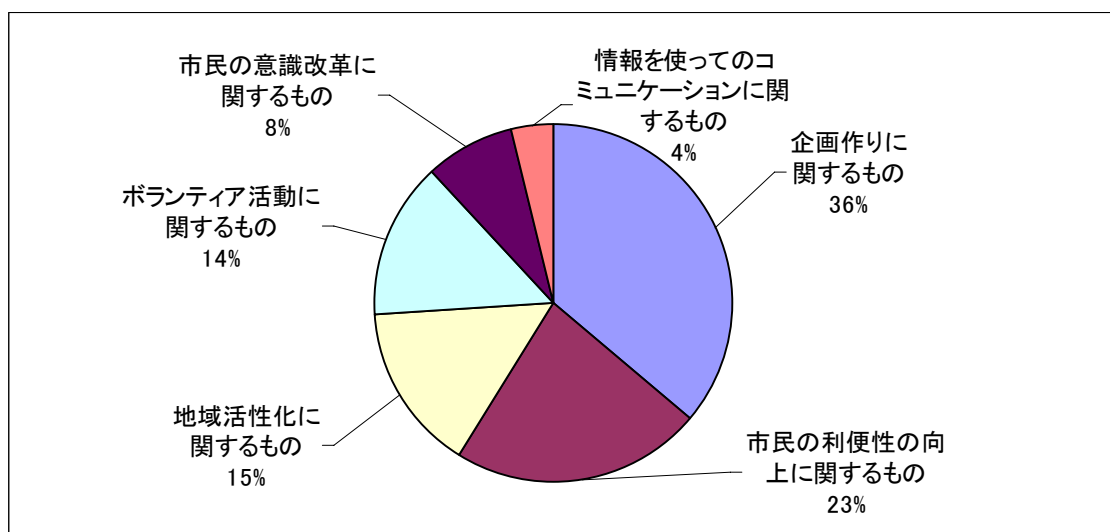
討議テーマ「これからはどのような地域コミュニケーションのあり方が必要ですか？」

いただいたご意見		得票数	計	得票率
○企画づくりに関するもの				
イベント企画を通じて交流を図る(魚つかみどり大会・バーベキュー大会)	15	76	27%	
大ビジョンを設置した市民広場を作る	14			
地域の集会の場(飲み会・バーベキュー)地域のイベント(盆踊り・運動会)	12			
子供からお年寄りまで楽しめる機会を作って欲しい	11			
公園広場の整備、木陰水辺等を取り入れる	10			
コミュニケーションの為にイベントを企画する(ビンゴ大会・フリーマーケット)	9			
皆が進んで参加したいと感じるような行事を作る	3			
大人、子供が一緒に楽しめる行事を行なう(花火・盆踊り)	2			
○情報を使つてのコミュニケーションに関するもの				
町内会に加入していない人に対して市からの情報伝達	18	74	27%	
シニア学校やインターネットでコミュニケーションのできるサイトをつくる	16			
情報を使つてのコミュニケーションに関するもの	15			
市民から市への要望が出せる仕組みを作る(目安箱等)	13			
24時間利用できる健康生活相談窓口	8			
多治見の良い所をPR	4			
○ボランティア活動に関するもの				
老人宅のコミュニティーを図るために、民生委員の数を増やし話を聞く	17	61	22%	
地域の役員(区長、町内会長)がもっと働いてもらえるよう市から働きかけてもらう	13			
リーダー的な人格を取り入れて活発化するようなシステムを作る	12			
女性が中心となって一人暮らしの方への声掛けをする	9			
老若男女が参加できるボランティア活動	5			
掃除など、目的ごとに個別の町内コミュニティーを作る	5			
○個人で出来るコミュニケーションに関するもの				
まず自分から心を開いて挨拶から	15	44	16%	
コミュニティーをはじめる為に、まず挨拶を家庭から根気よく声掛けを励行する	11			
地域の行事に参加して交流を深める	7			
誰とでも挨拶できるようにする(標語の募集等)	6			
自主的に挨拶を行なう(挨拶月間キャンペーン等の企画)	5			
○町内会に関するもの				
町内会の目的や意義を明確にする	13	22	8%	
もう一度町内会のあり方を見直す	9			
合 計	179	277	100%	

4. 討議テーマ「安心して愛着のもてる「住みやすいまち」にするには？」に対し、以下を提言いたします。

安心して愛着のもてる「住みやすいまち」にするために、防災意識の向上、地域コミュニティの充実、各地域の活性化に繋がる市全体で実施する市民参加型のイベントの企画、開催を求めます。

- ・シニア学校等をつくり高齢者に活躍の場を与え、若い人が参加できる特色のある行政サービスを望みます。
- ・多治見市の強みが分かりやすいキャッチフレーズの作成を望みます。
- ・各地域で会場を持ち回りにした、市全体で実施する市民参加型のイベントの企画、開催を望みます。
- ・市民がイベントなどに参加しやすいように、交通手段が無い地域の交通網の整備を望みます。



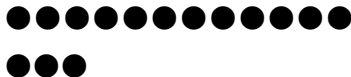

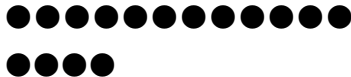
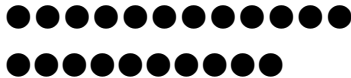
【分類のポイント】

シニア学校をつくり高齢者に活用する場を与える、多治見市のキャッチフレーズの作成、地域で会場を持ち回りし、イベントを開催するなど企画作りに関するもの。交通手段がない地域でのコミュニティバスの充実、交通網の整備など市民の利便性の向上に関するもの。インフラの整備、自然を残した緑が多いエコなまちづくりなど、地域活性化に関するもの。市民討議会など行政に参加する機会を多く人に与える、ボランティア制度の登録制の導入などボランティア活動に関するもの。日頃からの近所の人との挨拶、子供たちへの伝統文化の継承など、市民の意識改革に関するもの。緊急メールの周知など、情報を使ってのコミュニケーションに関するものなどがあつた。

討議テーマ「安心して愛着のもてる「住みやすいまち」にするには？」

いただいたご意見		得票数	計	得票率
○企画作りに関するもの				
シニア学校をつくり、高齢者に活用の場を与える。特色ある行政サービス(幼保育の充実)をして若い人を呼び込む	24	103	36%	
観光PR(多治見の名所巡りバスツアー・携帯ゲームによるスタンプラリー)観光に伴い市民の美化意識が進み活性化につながる	24			
市民がイベントをつくり、イベント参加者には特権をつける	14			
多治見市の強みが分かりやすいキャッチフレーズの作成	13			
魅力あるイベントの開催を実施する(会場を持ち回りし、市全体で実施する)市民参加型	9			
市民がコミュニケーションをするために、魅力的な駅にしてイベント等をして、人を集める(公園・多治見名物の販売)	8			
暑い多治見をアピールするためにソーラーパネルの助成を奨励し、エコなまちを目指す	8			
子供から高齢者まで参加できる行事を行う(盆踊り・運動会・スポーツ・歴史を学び合う)	3			
○市民の利便性の向上に関するもの				
交通手段が無い地域にはコミュニティーバスをもっとまわして欲しい	20	68	23%	
公共交通機関の充実(ききょうバスの充実、ループ化)	14			
携帯電話を支給して情報伝達の媒体にメールを活用する	13			
市民が参加しやすいように、交通網の整備をする	11			
交通整備・コミュニティーバスの充実、渋滞の緩和、防犯灯の増設により明るいまちにする	10			
○地域活性化に関するもの				
専門家の意見を取り入れたインフラ整備をする(飲料水、防火用水(風呂水)を確保する)	11	43	15%	
近所で集まれる場所をつくる(市の支援があると良い)災害が発生されるものとして個人で準備する	11			
緑が多いエコなまちづくり 自然を残し太陽光発電を増やす エコに関心のある企業の誘致(家庭内での防災意識を話し合う)	11			
企業誘致をして雇用の創出を図る(自らの命は自らが守る(防災グッズの準備、家具の固定))	10			
○ボランティア活動に関するもの				
市民討議会の回数を増やし、参加するチャンスを多くの人と与え、その内容と人をデータベース化する	23	42	14%	
ボランティア制度の登録制の導入(老人送迎・観光案内・独居老人に対する相談)	10			
ボランティアにはポイントをつけ、それを市内で使えるシステムをつくる(ゴミ袋の交換等)	9			
○市民の意識改革に関するもの				
近所の人との声掛けでコミュニケーションを図る(日頃の挨拶)	7	23	8%	
子供たちが安心して住めるまち。伝統文化の継承をすすめる(語り聞かせる)	5			
市役所、支所の業務の見直し 町内会のレベルアップ	5			
住みやすいまちにするために、市民一人一人が自覚を持って行動する(自然保護・ゴミ清掃)	4			
隣近所の方々に挨拶をしてコミュニケーションを図り、挨拶運動を行う	2			
○情報を使つてのコミュニケーションに関するもの				
緊急メール等、市からの提供されている情報を市民が活用する	7	11	4%	
防災無線が聞き取り難い地域に緊急メールの存在のアピール	4			
合 計	290	290	100%	





取りまとめシートの内容「討議テーマ1」

A グループ	水野 宮島 酒井 佐々木 宮嶋 三村 渡辺	
討議テーマ 安心な生活をするために地域、家庭でできる防災対策とは？		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の人たちの助け合い ・ 日頃から近隣の人とのコミュニケーション ・ 地域単位のコミュニケーションのとれるイベント企画 ・ 各地域の災害訓練には全員参加を呼びかける ・ 個人の防災対策として、自分の身の周りに常々から準備をしておく（物の確認、実行） ・ 災害時に必要な物を回覧板等でまわし購入できるようにする ・ 避難経路を家族間で確認しておく ・ 各戸では状況に応じて家具固定や食糧、水等を貯蔵（薬・連絡先） ・ 災害時に（家族構成）全員の安否を自主申告する仕組みを考える（役所・町内） ・ 災害時に身の周りのできる処理方法を周知、広報する（風呂水を飲料水化する） ・ 地域の避難場所をしっかりと把握する ・ 新しく来た人に対して、地域の班長等から災害マップ等を渡し重要点のみ口頭で説明をする ・ 転入者に対しての災害時の避難場所のお知らせ等を配布 ・ 他市・町よりの転入者にも避難場所等を通知、徹底する ・ 情報・伝達手段の改善（広報を別ける等、防災専用の情報誌の作成） ・ 高齢化する町内会への対応はどのようにするのかな？ ・ 災害の無い平常時から孤独な老人のケアを含めて近隣の人との声掛けあいを常日頃からする（町内） ・ 防災意識を忘れない為にも防災訓練の内容を工夫するべき ・ 高齢者に対して市内も含め市の方ではどうですか？ 		
まとめ1欄 災害時に高齢者をケアする為、常日頃からコミュニケーションをする	投票 	
まとめ2欄 自らの命は自ら守る（防災グッズの準備・避難経路の確認・家具の固定、補強、	投票 	
まとめ3欄 転入者に対して、地域・行政は防災意識を周知する	投票 	
残したい意見 市民が喜んで参加できる防災訓練を企画する	投票 	

取りまとめシートの内容「討議テーマ1」

<p>B グループ</p>	<p>長屋 柴田 大森 安江 各務 稲ヶ部 稲葉</p>	
<p>討議テーマ 安心な生活をするために地域、家庭でできる防災対策とは？</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練 ・少ない戸数での防災対策の勉強会の開催 ・地域コミュニケーションの充実（地区） ・毎日交わす挨拶から相手のことを知り、コミュニケーションが取れていると情報が提供しやすいのではないか ・一人一人の意識も毎日の中であると良いと感じます ・高齢者が多い地区と若い人との地区マップ等で表示する ・町内会の中で防災に関する役員を設けてはどうか ・地域の防災イベント開催等、積極的に参加することで地域との繋がりを深める ・防災意識を持っているが、実施できない（家具の転倒防止） 		
<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれで可能な範囲での自助策（グッズ・備蓄・近所付き合い等） ・家族内での話し合い（防災等） ・家庭で防災グッズを準備する（話し合いによって意識を高める） ・防災に対する意識等家庭内でしっかり話し合い地域のコミュニケーションを（特に年寄り等）密に対する対策が何かると良い ・家族の中での災害対策等、意識的に話し合ってはどうか ・明日死ぬかもしれないという意識を持つことで一人一人の被害を防げることができるのでは ・家庭で防災の話をし、家庭での対策を考える（スリッパ・ヘルメット等） 		
<ul style="list-style-type: none"> ・防災無線の設置 ・防災無線が聞き取りにくい（話し方の訓練をして欲しい） ・防災無線・ホームページ・携帯電話等ができない人もいるので連絡を取れるグッズの設置 		
<p>まとめ1欄 地域のコミュニケーションをして防災意識を高める</p>	<p>投票 ●●●●●●●●●●●●●● ●</p>	
<p>まとめ2欄 家庭内での防災意識を話し合う</p>	<p>投票 ●●●●●●●●</p>	
<p>まとめ3欄 防災無線の設置</p>	<p>投票 ●●●●●●●●●●●●●●</p>	
<p>残したい意見</p>	<p>投票</p>	




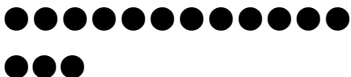
取りまとめシートの内容「討議テーマ1」

D グループ	吉田 横井 成瀬 水谷 加藤 星丸
討議テーマ 安心な生活をするために地域、家庭でできる防災対策とは？	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 向こう三軒両隣との親交の確立の為のPR（町内会を活用し周知していく） ・ 防災について家族と話をする ・ 声掛け運動を町内全員に ・ 両隣への声掛け、イベント参加 ・ 家族の所在をはっきりして連絡を行なう ・ 一泊以上家を空ける時は隣に一言声を掛けて出掛ける ・ 挨拶をする（一人で住んでみえる方等） 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災袋を市が全世帯に渡す（水・乾パン・袋一式） ・ 家具の場所を考慮する ・ ガラスに貼るシート ・ 家の防災・タンスの固定 ・ 普段から整理整頓し、物が散乱しないようにし、避難しやすくする 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 区で安全・安心カレンダーを作成（有料で良い） 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自主防災組織の任命の在り方の見直し ・ 消火栓の明示（特に路面に埋まっている消火栓） ・ 行政で誰でもできる防災対策セミナー等開いて意識を高める 	
まとめ1欄 声掛け→家族や向こう三軒両隣制度	投票 
まとめ2欄 自分で家の中でできること（タンスの固定・怪我をしないような準備・自分の家を整理整頓）	投票 
まとめ3欄 地域で防災カレンダーの作成する	投票 
残したい意見 セミナーへ参加・自主防災組織の見直し・消火栓の場所の明示	投票 

取りまとめシートの内容「討議テーマ1」

<p>E グループ</p>	<p>宮田 田中 木村 永井 今井 前田 加藤</p>	
<p>討議テーマ 安心な生活をするために地域、家庭でできる防災対策とは？</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域（町内単位）で避難情報の連絡係りをつくる ・ 老人用携帯 一人暮らしの老人に健啖な携帯電話を渡しておく ・ 一人に一個は携帯電話を持っていたり災害弱者の方に災害用携帯電話を貸与する ・ 地域でのコミュニケーション 災害弱者にどれだけ手を貸せるか ・ 災害発生メール受信用の電子機械を特定の方（老人・病気・寝たきり等）に配布する ・ 既に言われている家庭での防災対策を着実に実行する ・ 最悪な災害条件を列挙したシールで自主対策（耐震等を）啓蒙する 小・中・高への授業 ・ 地域で話し合いの（十人程度）の場を設定できないか ・ 地域で手を取り合って助け合う ・ 回覧板を使って情報や意識を持ってもらう ・ 防災無線をもっと聞き取りやすくする ・ 家の耐震補強を十分するようにPRする ・ 自分でできる自助・家具の固定 家具転倒防止に努める ・ 自助として家具を固定したり、全市民がホイッスルを持つ ・ 町内に一人災害のプロを準備 町内で一人係りを決めておく（連絡係り） ・ 災害情報の個人への集約 ・ 防災アドレス帳を作成する（寝室の位置を示したもの） 		
<p>まとめ1欄 災害情報の伝達手段として携帯電話・ホイッスル等を支給して地域に専任災害担当者との連絡網を作る</p>	<p style="text-align: center;">投票</p> <p style="text-align: center;">●●●●●●●●●●●●●●●●●●</p> <p style="text-align: center;">●</p>	
<p>まとめ2欄 各家の寝室位置を示すアドレス帳を作成し、市が管理して災害時に活用する</p>	<p style="text-align: center;">投票</p> <p style="text-align: center;">●●●●●●●●●●</p>	
<p>まとめ3欄 災害時を想定した対策項目を啓蒙し家具転倒等、耐震対策を促す</p>	<p style="text-align: center;">投票</p> <p style="text-align: center;">●●●●●●●●●●</p>	
<p>残したい意見 小・中・高生へ災害指導を徹底する</p>	<p style="text-align: center;">投票</p> <p style="text-align: center;">●●●●●●●●●●●●●●●●●●</p> <p style="text-align: center;">●●●●●●●●●●●●●●●</p>	

取りまとめシートの内容「討議テーマ1」

F グループ	鈴木 大地 河村 波多野 太田 栗田 吉田
討議テーマ 安心な生活をするために地域、家庭でできる防災対策とは？	
<ul style="list-style-type: none"> ・もう一度家の安全を確認して防げる事はできるだけする ・お祭り等のあとに地震体験（火災報知機・家具の止め具等の販売・レクチャー） ・お祭り等の市民が集まる時等に防災対策に使える道具等を配る機会が欲しい ・家具の固定の必要性（避難訓練の時に指導販売） ・転倒防止の為、極力物を置かない 外に燃える物を置かない ・部屋の中に物が無いエリアを作る ・熱・煙センサーの設置 	
<ul style="list-style-type: none"> ・近所付き合いの復活 ・世間話をするご近所さんを増やす ・自分のできること（身の周りにできるだけ物を置かず、近所の人と助け合うのが大切。その為にはいつも声を掛け合いたい） ・地域との繋がりを大切にする ・お隣、班の情報を知っておく ・井戸端会議をする ・向こう三軒両隣のような関係付けが必要 	
<ul style="list-style-type: none"> ・アパート・マンションの住人も含めた地域住民同士の交流 ・高齢世帯の住民同士が交流できるサロンの設営（災害時の助け合いに繋がる） ・体験だけで終わらない防災講習（ホームセンターにも協力してもらう） ・地区で集まる避難場所の確認の前に家族で集まる場所を決め、無事を確認する 	
まとめ1欄 機材面（家具の固定・部屋の中の整理整頓・熱・煙センサーの設置）	投票 
まとめ2欄 地域のコミュニティー（マンション・アパート住人も含めた近所付き合いの復活）（体験だけでは終わらない防災講習）	投票 
まとめ3欄 ソフト面（家庭内の繋がりなど地区で集まる避難場所の確認の前に家族で集まる場所を決め、安否の確認）	投票 
残したい意見 携帯ショップにて緊急メール登録の斡旋	投票 

取りまとめシートの内容「討議テーマ1」

G グループ	奥山 加藤 林 福田 宮島 宮嶋 水野
討議テーマ 安心な生活をするために地域、家庭でできる防災対策とは？	
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭で危険な場所を点検すること ・自分自身でできることは必ずする（家具の取り付け・食糧の備蓄等） ・家具が凶器になるなら早速固定する ・家庭に於いては自己責任で準備をしておく 	
<ul style="list-style-type: none"> ・町内会に入っていない方の回覧版・広報の配布 ・町内会に入っていないくても広報が届くようにする ・防災の為の情報チャンネルが必要 ・多治見の写真が出ているパソコンのページが知りたい 	
<ul style="list-style-type: none"> ・「安心な生活をする為に」というテーマについて各家庭が見直すような機会を多く持つ広報とか具体的な「家庭でできる防災対策」に関心を持ってもらい、実行に繋がるようにする ・笠原町の現在住んでいるところは隣同士のコミュニケーションが素晴らしく良い ・家の耐震化等に掛かる費用の補助金・防災教室・各地域毎の政策・多治見市全体の政策等を纏めた冊子づくりをすると良い ・具体的な災害事例等が記入されたハザードマップ等のようなものが必要 ・各地域に於ける援護必要とする人（特に高齢者）のリストアップ及び支援体制の確立 	
まとめ1欄 個々で災害が発生するものとして準備しましょう	投票 ●●●●●●●●
まとめ2欄 町内会に参加していない人にも広報が配布されるようにして下さい	投票 ●●●●●●●●
まとめ3欄 行政から受けられる支援と、個々で準備しなければいけない事を表などにして明確化する	投票 ●●●●●●●●●●●●●● ●
残したい意見	投票

取りまとめシートの内容「討議テーマ2」

A グループ	水野 成瀬 田中 宮島 長屋 三村 吉田
討議テーマ 市民がまちに誇りと愛着をもつためには？	
<ul style="list-style-type: none"> ・市内に点在している施設を周遊できる観光バスを走らせる ・一つの大きなコンセプト「多治見と言ったら～」を市民間で共通認識として持つ（他地域へアピール） ・永保寺・教会・陶磁器資料館をアピールする ・陶器を打ち出す 	
<ul style="list-style-type: none"> ・市民プールが一つあっても良い ・遊びをパッケージングしたプールが欲しい ・箱物をつくらず、もっと利用することを考えて欲しい ・自然を子供たちに教える ・自然環境を壊さず自然を守っていく（北小木の蛭等） ・土岐川の浄化整備 ・川遊びができるようにして欲しい ・緑いっぱい今の環境をこれ以上壊さない環境を誇りに思っています ・現存の公園のメンテナンスをきちんとして新しいものは作らないで欲しい ・広報でもう少し自然環境（場所）を伝えて欲しい 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの人にはクレジット（ポイント）をあげ、それを市内で使えるようにする ・自然保護の具体的な方法を小・中・高でレクチャーする ・ボランティアを学生に課す ・リーダーの育成 	
<ul style="list-style-type: none"> ・病院等、安心できる施設の充実 ・車が無い人の足をもっと考えて欲しい 	
まとめ1欄 地場産業（陶器）の活性化 試験場のPR	投票 ●●●●●●●●●●
まとめ2欄 自然環境（土岐川）蛭の保全と強化	投票 ●●●●●●●●●●●●●●●● ●●●●●●●●●●●●●●
まとめ3欄 ボランティア参加者へのポイントの発行 リーダーの育成	投票 ●●●●●●●●●●●●●●●● ●●
残したい意見 住みやすいまちづくり 車が無い人への対応	投票 ●●●●●●●●●●●●●●

取りまとめシートの内容「討議テーマ2」

B グループ	三谿 加藤 宮島 宮嶋 河村 水谷 大森
討議テーマ	市民がまちに誇りと愛着をもつためには？
<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動を組織化してより有機的に活動させる ・愛着を持つ為には楽しいと思える場所を作ること（誇りが持てる） ・楽しむ事を見つける（楽しければ続けられる） ・全世代が続けられイベント作り（地球村のアピール） ・ボランティア活動の中で愛着を持ち、続けて活動に参加する ・地域の中で何か活動すると人や町が見えてくる ・里山活動を続けることで乱開発を中止させたい 	
<ul style="list-style-type: none"> ・日本一・世界一を何か目指す ・情報誌を発行して色々な活動を紹介する ・たくさん活動があるので、もっとPRして多くの人を集める ・メディアをうまく利用する ・多治見のPR、ゆるキャラ「うながっぱ」・「暑いまち」メディアをうまく利用する ・情報提供力の充実→宣伝力→参加（特権付）→経済効果 	
<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境 先ず自分の家の周りから、そしてお隣へと広がっていく ・長く続けることが愛着を持てることになる ・老若男女 様々な人たちが多く集まる場を作り、皆で何かを作り達成する ・若者をどんどん引っ張り出し、イベント活動を広がっていく ・奉仕活動をばかにしないで、より多くの人を巻き込んで（清掃等）作業をさせる ・皆が喜んで参加できるように企画する ・利用できるものは何でも利用させてもらう 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ききょうバスをもっと運行すると良い 	
まとめ1欄 地域のボランティア活動を続けられるように、楽しみを持った企画をする	投票
まとめ2欄 気温が暑いだけでなく、それを超えるハートの暑さをアピールしてメディアを活用する	投票
まとめ3欄 老若男女 誰でも参加できる奉仕活動を企画する	投票
残したい意見 ききょうバスを増やすと良い	投票

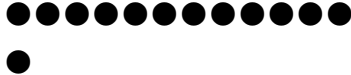



取りまとめシートの内容「討議テーマ2」

C グループ	水野 永井 大地 近藤 木村 横井 各務
討議テーマ 市民がまちに誇りと愛着をもつためには？	
<ul style="list-style-type: none"> ・他地域との交流（比較）で誇りや愛着の発見 ・他の地域との交流 ・他の地域の人と係り、参考にして良い所は取り入れる ・多治見市の特徴をもっと対外に情報発信する（陶芸普及） ・他の都道府県と市民レベルの文化交流会を催す ・地域のつながり ・少しでも空いている時間があれば自分のできることは進んで出掛ける ・高齢化の進む地域の人たちを若い人と老人と協力して助け合う町内にする ・老人たちが楽しんで集まれる場所をつくる 	
<ul style="list-style-type: none"> ・老人の交通手段 ・乗り物の無い所に朝、昼、夕方とバスを出して欲しい（今は便利な所だけ走っています） ・弱い立場の人達のフォローシステムの確立 ・高齢者に対する優しいまちづくり（例・車運転代行、町内ごとの組織等） 	
<ul style="list-style-type: none"> ・多治見の良い所の情報の発信を高める 	
<ul style="list-style-type: none"> ・市民の不安や不満を解消する施策を講ずるシステムをつくる（定期バスの運行をショッピングセンター、病院と地域とで負担する） ・自然の環境にもっと力を入れ、子供が安全に遊べる環境づくり 	
<p>まとめ1欄</p> <p>他地域との交流会を通して多治見を再認識する場を設ける</p>	<p style="text-align: center;">投票</p> <p style="text-align: center;">●●●●●●●●●●●●●●●●</p>
<p>まとめ2欄</p> <p>人に優しいまちづくり （高齢者に対する車の代行運転ボランティア、バスにかわる交通手段）</p>	<p style="text-align: center;">投票</p> <p style="text-align: center;">●●●●●●●●●●●●●●●● ●●●●●●</p>
<p>まとめ3欄</p> <p>多治見を対外に発信する。 市民の不安・不満を解消させる（目安箱システム）</p>	<p style="text-align: center;">投票</p> <p style="text-align: center;">●●</p>
<p>残したい意見</p> <p>市民の不安、不満を解消させる（目安箱システム）</p>	<p style="text-align: center;">投票</p> <p style="text-align: center;">●●●●●●●●</p>




取りまとめシートの内容「討議テーマ2」

D グループ	宮田 宮嶋 星丸 稲葉 波多野 林 鈴木
討議テーマ 市民がまちに誇りと愛着をもつためには？	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の清掃活動などを行なう ・環境美化→住居周辺事業所（周辺を清掃しよう） ・町内美化をして住みよい町にする ・公園が多くつくられているが、荒れているので整備に人が集まるように周辺も整備して欲しい ・自主的に各施設の手伝いに参加する ・町以外の場所にも交流の場を持つ ・地域の行事、盆踊り、お神輿などを子供たちに伝えていく 	
<ul style="list-style-type: none"> ・学生ボランティア募集など、若い世代の参加を促す ・若者が積極的に参加できるよう、支援セミナーで取り組みの推進 ・高校生、大学生など若い世代の人にも色々な活動に対して呼びかける ・種々のサークル活動を知る ・若年者のサークル活動の発表 ・文化事業や交流の内容、種類、地域別にわかりやすく紹介して欲しい 	
<ul style="list-style-type: none"> ・広報などの情報伝達をわかりやすくなるように工夫する ・広報を利用して皆が色々なイベント交流会に出席を促す方法を考えたい。若い人にもっと呼びかけたい ・広報をカラーにし、伝えたい情報を読み取りやすくする 	
<ul style="list-style-type: none"> ・バスや道の不便さをなくす。 ・活動に参加しやすいまちづくりを行なう（交通整備） ・交通機関を良くして欲しい（車社会なのでもっと歩行者にやさしい道づくりをして欲しい） ・公共交通機関を充実させる ・高齢者、子供、歩行者にやさしいアクセスを充実させる（市バスの本数を増やす） 	
<p>まとめ1欄</p> <p>高齢者、車を運転しない人に配慮した公共交通機関のより充実を。</p> <p>(例：バス停の増設)</p>	<p>投票</p> <p>●●●●●●●●●●●●●●●●</p> <p>●●●●●●●●●●●●●●</p>
<p>まとめ2欄</p> <p>広報で文化交流事業をよりわかりやすく紹介し、若い世代にも積極的に参加できるよう、働き掛ける。</p>	<p>投票</p> <p>●●●●●●●●</p>
<p>まとめ3欄</p> <p>町内美化を積極的にすすめ、住みよい町を目指す。</p>	<p>投票</p> <p>●●●●●●●●</p>
<p>残したい意見</p> <p>地域の行事（盆踊りなど）を子供たちに伝えていく。</p>	<p>投票</p> <p>●●●●●●</p>

取りまとめシートの内容「討議テーマ2」

E グループ	前田 渡辺 栗田 吉田 鬼頭 杉本
討議テーマ 市民がまちに誇りと愛着をもつためには？	
<ul style="list-style-type: none"> ・公民館等を利用して地域の交流を計り活動のPRをすすめる ・交流センターの周知を（携帯登録を積極的にする 情報を得る努力も個々に） ・公民館での活動を支援センターを通して交流する ・地域の情報をわかりやすく広める ・文化活動の紹介を広く周知させる ・サロンでの展示にとどまらず、公共の場、目につきやすいところでも（例：駅、学校、市民病院等） ・公共施設利用のための足の確保（そこに行けなければ意味がない） 	
<ul style="list-style-type: none"> ・市の職員が市に誇りを持って市の活動をする ・先ず参加してもらうように働きかける ・市民一人一役運動展開の旗振りを仕掛ける ・市民の団体の活動に誇りを持って取り組む ・多治見が誇れるもの、人を発掘 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ホテルの住める川作り ・市の一斉清掃日を年一回から年二回に ・道路脇の木の剪定などの回数を多くする ・市の清掃活動を増やす（道路などの清掃など） ・地球村だけでなく色々な地域での休耕田を利用したどろんこ体験 ・きれいな街づくりのため市で行なう清掃の回数を増やす（ホテルが住める川づくり） 	
<ul style="list-style-type: none"> ・各地域特性の深化と地域間交流活発化への支援 ・市民意識調査の仕方の見通しが必要（問題点が把握できるように） ・喜多公園の更なる魅力づくりと利用者の拡大を図って欲しい ・多治見のよいところ（ブランド）として皆の意識にのせ育て、持続、アピールする 	
まとめ1欄 きれいな街作り（ホテルが住めるような川を作る）、市内一斉清掃の実施	投票 
まとめ2欄 情報の共有、広報活動の広げ方（駅病院等に掲示する、公園等のPR）	投票 
まとめ3欄 市民参加の呼びかけ（交通機関の整備）	投票 
残したい意見 問題の出せる現状の意識調査の実施	投票 

取りまとめシートの内容「討議テーマ2」

F グループ	太田 今井 酒井 奥山 水野 安江 加藤
討議テーマ 市民がまちに誇りと愛着をもつためには？	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史、自然等、市の良さを知る機会、場をたくさん設けて欲しい ・ 60年代中から70年代初めの自然環境に比べて現在は非常に良くなっている感じがする 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校別ではなく小学校高学年位から大学生位までのボランティア団体を作り、月一回は活動する ・ 花を植える ・ 子供が育つ環境を良くする事が基本となる ・ 幼稚園児から大人まで入れる深さが違う市民プールの建設 ・ 市民プール、スケート場に設置をして欲しい ・ 商店街の活性化、出かけたくなる町への整備 ・ 個々の意識を高める。それについては情報アンテナを敏感にする ・ 自慢できる産業、特産品等をもっとアピール、名物料理等（多治見といえど何々といわれるような） ・ 多治見市の最高点に名前をつけ、登山道路を整備して欲しい。小学校の遠足地に位置付ける 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 多治見市の行事、例えば陶器まつりなど他県からは多くみえるが多治見市民の参加などもっと魅力のあるPRなど工夫されれば愛着がもてるのではないか ・ 参加したくなる行事を続ける ・ 先ず市民が文化事業振興事業団の活動を十分知って多くの人に参加できるような町になれば良いと思います。 ・ 市民が気軽に意見交換できる場を設ける 	
まとめ1欄 市民が参画できる行事（祭りなど）を行う幅広い意見を募集し、繁栄させる	投票 
まとめ2欄 子供が育つ環境を作る （花を植える、深さの違うプール、スケート場建設）	投票 
まとめ3欄 多治見市の歴史・文化を市民に知ってもらう（修道院・永保寺等の歴史を発信）	投票 
残したい意見	投票

取りまとめシートの内容「討議テーマ2」

<p>G グループ</p>	<p>鈴木 柴田 佐々木 稲ヶ部 加藤 福田</p>	
<p>討議テーマ 市民がまちに誇りと愛着をもつためには？</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・公園や休憩する場所などを増やし人と話せる場を作る ・高齢者が多くなるので腰かけて話ができるオアシスがあったら ・公民館を多く利用して人とのコミュニケーションを図る ・小さな所から人と人との繋がりをもって地域を良くし、愛着の持てる町にする。 ・自然を大事にして気がねなく散歩できるような公園を作って欲しい（日陰で休める・人々が集まってくる・・・愛着を持てるようになるのでは） ・子供から大人・高齢者までの地域コミュニケーションを持てるような、毎年行事に参加しようという行事を多くして欲しい（一人でも参加できるような・・・） ・現在ある施設を有効活用する ・小・中・高などのボランティア活動などで、多治見市の良いところを子供たちに教えながら、見つけながら活動する場を持つ 		
<ul style="list-style-type: none"> ・市の観光施設、物を外に向けPRで多治見市の認識をしてもらう ・多治見の町をPRする歴史の案内、陶器のPR ・多治見市の良いところを沢山PRする（地球村・虎溪山など） ・行政がしっかりして財政が安定していれば暮らしやすい ・多治見市の持っている強みをいかしPRする 		
<ul style="list-style-type: none"> ・多治見駅前を他方面から来多された方々に素敵な街と言われるように行政・市民で作りたい ・他方面の各企業と行政が重い腰をあげていくのが愛着を持てる一番に感じる（街おこしを含めて） ・企業誘致で雇用の創出（可児市との比較） ・ホテルを繁殖させてホテルの里、多治見にする 		
<p>まとめ1欄 子供から高齢者までコミュニケーションがとれるような場所と機会を多くして人との交流を深める</p>	<p style="text-align: center;">投票</p> <p style="text-align: center;">●●●●●●●●</p>	
<p>まとめ2欄 暑い多治見市だけでなく、歴史と自然と文化をPRできるような多治見をつくっていききたい</p>	<p style="text-align: center;">投票</p> <p style="text-align: center;">●●●●●●●●●●</p>	
<p>まとめ3欄 企業を誘致して雇用の安定を図る</p>	<p style="text-align: center;">投票</p> <p style="text-align: center;">●●●●●●●●●●●●●●</p> <p style="text-align: center;">●●●●●●●●</p>	
<p>残したい意見 自然を残してホテルを繁殖させたい</p>	<p style="text-align: center;">投票</p> <p style="text-align: center;">●●●●●●●●</p> <p style="text-align: center;">●●●●●●●●</p>	

取りまとめシートの内容「討議テーマ3」

A グループ	杉本 加藤 佐々木 三村 加藤 宮島
<p>討議テーマ これからはどのような地域コミュニケーションのあり方が必要ですか？</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ月間を作る 近所での挨拶を進んで声かけをする 家から出る ・コミュニケーションは声かけ 挨拶からはじめよう まずは近所での挨拶 ・声かけから（お花をほめるから） 参加しない人へは積極的に声をかける 	
<ul style="list-style-type: none"> ・年齢に関係なく楽しんで参加できるイベントを企画する（各町内 区 夏休み等の期間を使う） ・イベントには地域公民館を活用する ・イベントの内容（町内清掃 こどもの日 敬老の日 映画上映 ビンゴ大会 花見 月見会 フリーマーケットを行う 大型ビジョン（スポーツ観戦）を設置した市民広場を作る） ・町内 区でのイベントに声掛けをする 	
<ul style="list-style-type: none"> ・健康生活相談（保健士 薬剤師に相談できる場を設ける 平日の昼間だけではなく 勤めている人のニーズにも合わせてほしい 24時間対応してほしい） 	
<p>まとめ1欄 自主的にあいさつを行う そのためにあいさつ月間キャンペーンを市などに企画してほしい</p>	<p>投票 ●●●●●</p>
<p>まとめ2欄 コミュニケーションの為にイベントを企画する 皆が参加できる（ビンゴ大会、花見、月見 フリーマーケット 映画など）</p>	<p>投票 ●●●●●●●●●●</p>
<p>まとめ3欄 健康生活相談窓口 （24時間利用できる地域単位の生活に密着した相談窓口を作る）</p>	<p>投票 ●●●●●●●●●●</p>
<p>残したい意見 皆で感動を共有する（スポーツ観戦）ため、 大型ビジョンを設置した市民広場をつくる</p>	<p>投票 ●●●●●●●●●● ●●</p>





取りまとめシートの内容「討議テーマ3」

<p>B グループ</p>	<p>太田 河村 栗田 星丸 成瀬 加藤 横井</p>
<p>討議テーマ これからはどのような地域コミュニケーションのあり方が必要ですか？</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の活動に声をかけ合い参加する 大人から声をかける 家を通る人に挨拶する ・地域活動のできる人を育成する ・退職後、自由な時間が持てるようになったらボランティアでもいいので学童保育、昔の遊びを伝授する また、楽しかった行事を続けていけるように参加していきたい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・家族で参加できるような地域行事（盆おどり）を開催する ・公園など広場を整備し地域で安心して遊べる場所の確保 公園（遊具のある所） 落書きのできる場所 夏場に木陰に休める場所を設ける ・リアルなコミュニケーションが理想なので公民館だけでなく公園等を気軽に入りやすくする ・盆踊りで親子が楽しめるよう町内に子供が入れるスペースをつくる ・昔からの遊びを今のうちに若い人達に伝承する場を企画する ・子どもを通じて大人もコミュニケーションを深めるため伝承遊びで一緒に遊ぶ（泥団子づくり） ・祭りやイベントなどを書いた予定表の作成 ・暑さ対策もかねてみんなで一齐に夕方打ち水をするイベントをする ・家の前の道路に消える落書きをしてみる 	
<ul style="list-style-type: none"> ・市のHPに個人の意見を書き込めるエリアを用意し不特定多数とコミュニケーションを取れるようにする ・インターネットでコミュニケーションのできるようなサイト等 	
<p>まとめ1欄 誰とでも挨拶できるようにする。（学校へ指導依頼する） 標語の募集など</p>	<p>投票 ●●●●●●●●</p>
<p>まとめ2欄 公園広場の整備 木陰水辺など取り入れる</p>	<p>投票 ●●●●●●●●●●●●●●</p>
<p>まとめ3欄 大人子供が一緒に楽しめる行事を行う 花火 盆踊りなど</p>	<p>投票 ●●</p>
<p>残したい意見 シニア学校・インターネットのコミュニケーションのできるサイト等を準備する</p>	<p>投票 ●●●●●●●●●●●●●● ●●●●●●</p>

取りまとめシートの内容「討議テーマ3」

C グループ	田中 福田 宮田 木村 宮嶋 今井 水野
<p>討議テーマ これからはどのような地域コミュニケーションのあり方が必要ですか？</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの地域で町内会の目的や役割を見直す必要がある（権限ルールを明確にする） ・町内会、自治組織に行政は頼りすぎではないか？（広報誌の配布 業務の委託など） ・町内会毎にルールを作成（町内情報の収集 防災・防犯対策） ・町内会未加入世帯への対応 ・目的別セグメントごとのコミュニティーの創造（防災防犯 福祉 スポーツなど） ・地域ごとに各種ボランティア組織を作る（交通安全 高齢者への対応指導） ・皆が参加できる町内行事を行う ・住民が連帯意識を醸成するための行事づくり（地域清掃 季節行事 河川清掃） ・会報などで情報伝達を市民全員に行う 	
<p>まとめ1欄 町内会の目的や意義を明確にする</p>	<p style="text-align: center;">投票</p> <p style="text-align: center;">●●●●●●●●●●●●●●●●</p>
<p>まとめ2欄 掃除など、目的ごとに個別の町内コミュニティーをつくる</p>	<p style="text-align: center;">投票</p> <p style="text-align: center;">●●●●●</p>
<p>まとめ3欄 皆が進んで参加したいと感じるような行事をつくる</p>	<p style="text-align: center;">投票</p> <p style="text-align: center;">●●●</p>
<p>残したい意見 町内会に加入していない人に対して市から情報伝達をしてもらう (ごみの分別など)</p>	<p style="text-align: center;">投票</p> <p style="text-align: center;">●●●●●●●●●●●●●●●● ●●●●●●●●</p>

取りまとめシートの内容「討議テーマ3」

<p>D グループ</p>	<p>吉田 長屋 大地 酒井 波多野 鈴木 大森</p>
<p>討議テーマ これからはどのような地域コミュニケーションのあり方が必要ですか？</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の集会の場 老若男女 問わず触れ合いの場をつくる (町内での花見 バーベキュー盆踊り 運動会 ソフトボール大会 秋祭り どんどん焼き) ・市政を知りたいはずの市民参加が少ない 区長や町内会長さんの参加集めの熱意と行動を期待したい。 ・行事に参加できない人へのコミュニケーションは民生委員さん 福祉委員さんらのお隣さんの力を借りられるよう市にも呼び掛けてほしい。(民生委員さんとか福祉をもっと利用する) ・多治見市は地域力、自治力、自分たちが弱い これの up のための区長研修を求めて欲しい ・市が 議員が動き区長を動かす。 議員さんのコミュニケーション構築の為の助力と熱意が欲しい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・市への要望書の目安箱的な施設が欲しい 町内会以外に市民側から要望や意見を出せる仕組みが必要 ・行政は市民に遠慮しない 市民のための市民行政への自信を持って動いて欲しい 	
<ul style="list-style-type: none"> ・外国人の自治会加入には会社側、大家側が進めるようにする ・町内回覧板(広報活動) コンクール(実例紹介) など実施し素晴らしい事は真似る 	
<p>まとめ1欄</p> <p>地域の集会の場(飲み会、お花見 バーベキュー)</p> <p>地域のイベント(盆踊、運動会、ソフトボール、どんどん焼き)</p>	<p>投票</p> 
<p>まとめ2欄</p> <p>地域の役員(議員 区長 町内会長 民生委員 福祉委員がもっと動いてもらえる様 市から働きかけてもらう)</p>	<p>投票</p> 
<p>まとめ3欄</p> <p>市民から市への要望が出せる仕組みをつくる(目安箱等)</p>	<p>投票</p> 
<p>残したい意見</p> <p>外国人の自治会加入には会社側、大家側が進めるようにする</p> <p>回覧板コンクール。 行政は市民に遠慮しない</p>	<p>投票</p> 

取りまとめシートの内容「討議テーマ3」

E グループ	永井 水野 三谿 林 渡辺 柴田 安江
<p>討議テーマ これからはどのような地域コミュニケーションのあり方が必要ですか？</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・お年寄りから子供までが参加したいと思うようなワクワクするイベントなどを企画する ・皆が楽しく参加できる行事など検討をして欲しい。 ・地域だけでなくまずは隣近所と密にしたい（子供を含めて） ・自治会への参加を求めるにはどうしたら良いか 魅力的なイベント等の開催 個人の意識を高める ・地域コミュニティに、老若男女問わず参加したくなるような仕組みづくりをする ・地区での行事など積極的に参加しコミュニケーションを取る。 ・市民プール、スケート場の設置をして欲しい ・地域で活動できる予算を計上して 自治会などで使用できるようにする個人の経済負担を減らす ・子どもや中高年、お年寄りなど年齢に関係なく一緒にできるボランティア活動など 	
<ul style="list-style-type: none"> ・近所の人たちとのあいさつ子供たちへの声かけなど自分から進んで会話するなどを意識する ・挨拶ができる子どもを育て 大人になってコミュニケーションのとれる人になるようにする ・まず挨拶を保育園 幼稚園 小中高 徹底する ・自分自身の意識を高め、人を思いやる気持ちを持つ挨拶をする 	
<ul style="list-style-type: none"> ・市で緊急メールだけでなく他の行事 情報を流してはどうか？ ・携帯メール 	
<p>まとめ1欄</p> <p>イベント企画を通して連携を密にする</p> <p>地域対抗の魚つかみどり大会・バーベキュー大会</p> <p>ゆるキャラうながっぱ大会など</p>	<p style="text-align: center;">投票</p> <p style="text-align: center;">●●●●●●●●●●●●●●●●</p> <p style="text-align: center;">●●●●</p>
<p>まとめ2欄</p> <p>コミュニティを始める為に、まずあいさつを家庭から根気よく声掛けを励行する</p>	<p style="text-align: center;">投票</p> <p style="text-align: center;">●●●●●●●●●●●●●●●●</p>
<p>まとめ3欄</p> <p>携帯メールを使用してイベントや防災情報その他、市連絡事項を各家庭に送信する個人の意見や回答を集めて対応する</p>	<p style="text-align: center;">投票</p> <p style="text-align: center;">●●●●●●●●●●●●●●●●</p> <p style="text-align: center;">●●●●</p>
<p>残したい意見</p> <p>老若男女が参加できるボランティア活動を企画してコミュニケーションを図る</p>	<p style="text-align: center;">投票</p> <p style="text-align: center;">●●●●●●</p>

取りまとめシートの内容「討議テーマ3」

F グループ	鈴木 水野 前田 各務 宮島 稲ヶ部	
討議テーマ これからはどのような地域コミュニケーションのあり方が必要ですか？		
<ul style="list-style-type: none"> ・自分から心を開いてまわりに(挨拶)声をかける ・自分の心を開いて他人を受け入れる努力をする ・挨拶からコミュニケーション ・声かけ運動、近所同士のコミュニケーション(自らコミュニケーションする) ・近所とのコミュニケーションの機会 ・陶都である多治見から全国に向かって情報を発信する努力をする(市、業界、市民レベルで) ・陶磁器産業に関連する施設が連携して外部に情報発信(展示品の紹介、作陶教室) ・転入者に優しい町内会作り ・多治見市の良いところを大いにPRできるように情報の発信をする ・広報で多治見の施設をPRする欄を作る(広報誌の充実) ・女性が中心となり、まずはお隣から声かけをする ・子供のころから家庭で他の人にも挨拶できるようにしつけをする ・町内行事に参加し、役員をすることにより若い人、年配の人とも交流できる ・高齢者社会の中、町内会費を集金に独り住まいの人に広報を配布 ・独り暮らしの人に出来るだけ声をかける(町費を3ヶ月に1度集金する等)災害時にも助け合えるように ・コミュニケーションを図るには自分から心を開いて相手と向き合い情報交換をする ・自分から話しかける ・まずは身近なところから挨拶会話を広げていく 		
まとめ1欄 まず自分から心を開いて挨拶から	投票 ●●●●●●●●●●●●●●●●●● ●●●●	
まとめ2欄 地域の行事に参加して交流を深める	投票 ●●●●●●●●	
まとめ3欄 多治見の良いところ(陶磁器産業の施設等)をPRすることがきっかけ作りの第一歩	投票 ●●●●●	
残したい意見 女性が中心となって独り暮らしの方への声かけをする(広報の配布、町内会費の集金等)	投票 ●●●●●●●●●●●●●●	

取りまとめシートの内容「討議テーマ3」

<p>G グループ</p>	<p>近藤 吉田 水谷 奥山 宮島 鬼頭 稲葉</p>	
<p>討議テーマ これからはどのような地域コミュニケーションのあり方が必要ですか？</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区にこだわらず趣味、要望に応じたコミュニティーを形成し、町内会へ参加する ・ 地域コミュニティーへの参加意識を高める ・ 他地区と連携を図って子供たちとのコミュニケーションの機会を作る ・ 青少年のコミュニティーはメリットをつけて楽しめることを企画する ・ 地域間のコミュニケーションの交流会の開催及び合併 ・ 子供からお年寄りまで地域に引っ張り出す機会を作る(スポーツ、昔遊び等) ・ 町内会の集会所での行事を増やし、近所の人たちに声をかけて参加する ・ 青少年スポーツ大会 ・ 老人クラブの充実 ・ 青少年のスポーツの育成 ・ 子供同士のコミュニケーションの橋渡しをする 		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 町内会に入っていない方にも、広報、情報を行き届くようにする ・ 町内会の情報の伝達 ・ 家から出られない方(お年寄り等)等弱い立場の方の意見が届くまちづくり ・ 社会的弱者も参加できる企画が必要 ・ 老人宅のコミュニティーは地区の民生委員の数を増やして週一回くらいは家を訪ねて困っていることなど話を聞く 		
<ul style="list-style-type: none"> ・ リーダー的な人材を取り入れて、活発化させる ・ 若い世代に税金の使い方を教えてあげる(税金の使い方を考える) ・ 町内会のありかたの見直しをする 		
<p>まとめ1欄 地域だけにこだわらず、スポーツ、文化交流を通じて、子供からお年寄りまで楽しめる機会を作してほしい</p>	<p>投票</p> <p>●●●●●●●●●●●●●●●●</p>	
<p>まとめ2欄 老人宅のコミュニティーを図るのに民生委員の数を増やし、週一回位は家を訪問し、困っていることなどの話を聞いてほしい</p>	<p>投票</p> <p>●●●●●●●●●●●●●●●●</p> <p>●●●●●●●</p>	
<p>まとめ3欄 リーダー的な人材(区長にかわるような方)を取り入れて活発化するようなシステムを作してほしい(リーダーには少しの報酬有)</p>	<p>投票</p> <p>●●●●●●●●●●●●●●●●</p>	
<p>残したい意見 もう一度町内会のあり方を見直す</p>	<p>投票</p> <p>●●●●●●●●●●●●●●●●</p>	

取りまとめシートの内容「討議テーマ4」

A グループ	大森 長屋 安江 林 前田 水野
討議テーマ 安心で愛着のもてる「住みやすいまち」にするには？	
<ul style="list-style-type: none"> ・茶碗まつり、たじみまつり等のイベントを地区の持ち回りにしてボランティア実行委員で運営する ・一般市民も参加できるような陶器に関するイベントの開催（例えば陶器まつりを地区別にする。その他 陶芸教室など） ・陶器に皆が親しむことによって地域のコミュニケーションにつながるのではないかな？ ・一般市民が参加できるイベントを実施する ・陶器まつりの出品でより良い品、珍しい品を増やす ・地場産業の活性化（出店内容を工夫して、来てもらえるようにする） ・多治見の街全体を使って祭りなどをする（一部駅前だけに偏らず年ごとに区切って地域を盛り上げる） ・ミニホームステイの受け入れ対応をすすめる ・陶磁器産業のイベントを盛り上げる(器のみでなく、季節の物を買いやすくする) 	
<ul style="list-style-type: none"> ・まちおこしイベントなど一般市民に企画・運営に参加をさせる ・多治見の自然をテーマにしたイベントの企画（蛭まつり、陶芸まつり） ・町内での大きなイベント等を通じて活動の推進を図る 	
<ul style="list-style-type: none"> ・歩行者の配慮がしてある道路整備をすすめる ・専門家を交えて交通アクセス等、交通の便をもっと研究してもらいたい ・専門家の方と共に、住みやすいまちづくりをする ・老人(弱者)にやさしい交通、道路等の整備を実施する 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア制度の導入をする ・市民に各種ボランティアに登録してもらい活用する(老人送迎、観光案内、独居老人の相談) 	
<p>まとめ1欄</p> <p>魅力あるイベントの開催を実施する (例：会場を持ちまわり市全体で実施する(市民参加型)、陶芸教室) 器のみでなく季節の物を出店する</p>	<p>投票</p> <p>●●●●●●●●●●</p>
<p>まとめ2欄</p> <p>多治見の特徴をいかしたイベント企画を実施する 企画に一般市民に企画・運営に参加させる</p>	<p>投票</p> <p>●●●●●●●●●●</p>
<p>まとめ3欄</p> <p>専門家の意見を取り入れたインフラ整備をする(交通弱者、医療)</p>	<p>投票</p> <p>●●●●●●●●●●</p>
<p>残したい意見</p> <p>ボランティア制度の登録制の導入 (老人送迎、観光案内、独居老人に対する相談)</p>	<p>投票</p> <p>●●●●●●●●●●</p>


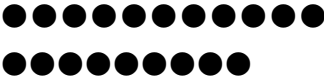


取りまとめシートの内容「討議テーマ4」

B グループ	吉田 渡辺 三谿 宮田 永井 水野 鈴木
討議テーマ 安心で愛着のもてる「住みやすいまち」にするには？	
<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話でコミュニティーシステムを構築し、シニア世代への情報伝授に役立てる ・情報伝達の媒体を紙(広報や回覧板)からメールへ移行する ・情報伝達のメール化 ・行政民間企業が一体となって政策を押し進めていく必要がある ・雇用の創出(陶磁器・タイル等の地場産業をうまくPR) ・隣近所の方々に挨拶をしてコミュニケーションを図り、挨拶運動を行う 	
<ul style="list-style-type: none"> ・工場や会社を増やし、収入と雇用を増やす ・市の歳入を増やすことを考える(企業誘致、雇用創出) ・雇用の確保企業誘致、または陶器産業の活性化 ・企業を誘致して雇用の創出を図る 	
<ul style="list-style-type: none"> ・シニア学校をつくり、高齢者に活性の場を与える ・広報の行事等をまめに見て利用し、交流範囲を広める ・里山を保存して、現存の動植物を守る ・きれいなまちづくり、蛍の住めるまちを目標に、公園清掃を自分たちで行う ・多治見でお金をおとす(店などの利用) ・多治見として行政のひとつに絞った魅力をつくり、大勢若い人に移住してもらう ・郊外に暮らしていて車を持っていない人への交通の便の確保(バス、踏み切り、歩道) 	
まとめ1欄 携帯電話を支給して情報伝達の媒体にメールを活用する	投票
まとめ2欄 企業誘致をして雇用の創出を図る	投票
まとめ3欄 隣近所の方々に挨拶をしてコミュニケーションを図り、挨拶運動を行う	投票
残したい意見 シニア学校を作り高齢者に活用の場を与える 特色ある行政サービス(幼保育の充実)をして若い人を呼び込む	投票

取りまとめシートの内容「討議テーマ4」

C グループ	鬼頭 各務 水野 鈴木 今井 宮嶋 加藤
討議テーマ 安心で愛着のもてる「住みやすいまち」にするには？	
<ul style="list-style-type: none"> ・市全体が参加して「声かけ、挨拶」運動をする（地域コミュニケーションの推進） （近所の声かけが大事だけどほかっておいてという人もいるから難しいかも） ・コミュニケーション、声かけ運動 ・市民同士の積極的な声かけ運動の実施 	
<ul style="list-style-type: none"> ・緊急メール(緊急情報だけでなく、イベント等市民参加の情報を流す) ・緊急メールを市民がもっと積極的に活用する(未加入者はすぐに申し込む) ・情報誌などで多治見のことを知って参加する 	
<ul style="list-style-type: none"> ・まちをきれいにして、魚が住め、蛍が飛びかうまちづくり ・多治見再発見！あらためて多治見市(歴史、自然、行事、施設等)をみてみよう。行政は積極的にその場を設けてほしい ・自然環境(温暖化)に対する意識を高める(マイ箸、エコバック、アイドリング) ・少しでも住みやすいまちにするため、各自がいろんなことについて意識してよりよい市にする(例えばタバコのポイ捨て、車からの投げ捨て) ・自然環境の保護 ・自覚を持ってよいと思うことは実行しよう(車のアイドリング、不法投棄、声かけ) 	
<ul style="list-style-type: none"> ・行事等がたくさんあるので、自分で参加することが大事 ・多治見の状況を知ろう(知る機会を設ける、広報を隅から隅まで読む、携帯の登録) ・市民の意識を変える(広報に目を通す等) ・ボランティア(ゴミ掃除等)の実施と、そこに積極的に参加して「住みやすいまち」づくり ・これから先のことを考えて(少子高齢化)住みやすいまちづくりにする ・老人にとって住みやすいまちにする(交通機関、近所のコミュニケーション、地区行事の参加) 	
まとめ1欄 近所人との声かけで、コミュニケーションを図る(日頃の挨拶)	投票 ●●●●●●●●
まとめ2欄 緊急メール等の市からの提供されている情報を市民が活用する	投票 ●●●●●●●●
まとめ3欄 住みやすいまちにするために市民一人ひとりが自覚を持って行動する (自然保護、ゴミ清掃)	投票 ●●●●●
残したい意見 防災無線が聞き取りにくい地域に緊急メールの存在のアピール	投票 ●●●●●

取りまとめシートの内容「討議テーマ4」

D グループ	横井 三村 奥山 宮島 稲葉 佐々木
討議テーマ 安心で愛着のもてる「住みやすいまち」にするには？	
<ul style="list-style-type: none"> ・近所で集まれる場所をつくる ・老人グループのホーム化(老人の話し合いの場) ・高齢者と空洞化したまちの中心に移住させる手段を考える(グループホーム) ・高齢者を忙しくさせて老化の防止を図る(老人会、趣味会等の組織化) ・高齢化を進ませないため、今の状況を持続させる(集う場所がほしい) 	
<ul style="list-style-type: none"> ・交通手段が無い(地域にもっとコミュニティーバスをまわしてほしい) ・交通インフラの整備をする(特に辺境地といわれる地区) ・コミュニティーバス等の増車、及び停留所の増加 ・子供からお年寄りまで充実した交通手段の見直し ・陸の孤島といわれている団地、高齢化が進むため交通手段を強く望む 	
<ul style="list-style-type: none"> ・存続中止の祭りの復活(盆踊り、運動会等) ・高齢でもできる運動会 ・お祭り、文化交流等楽しい企画をし、アンケート調査など市民中心で行う(P Rする委員会をつくる) ・子供からお年寄りまでの交流を行う(挨拶運動、スポーツ、遊び、歴史) 	
<ul style="list-style-type: none"> ・市として良いところも多いので、それを知ってもらう ・地域での活性化を図り、アンケート等をする ・美しいまち、美しい道路、美しい公園のためにボランティア活動をする ・ボランティアにはポイントをつけ、それを市内で使えるシステムをつくる 	
まとめ1欄 近所で集まれる場所を作る(市の支援があるといい)	投票 
まとめ2欄 交通手段が無い地域には、コミュニティーバスをもっとまわしてほしい	投票 
まとめ3欄 子供から高齢者まで参加できる行事を行う(盆踊り、運動会、スポーツ、歴史を学びあう)	投票 
残したい意見 ボランティアにはポイントをつけ、それを市内で使えるシステムをつくる(ゴミ袋との交換等)	投票 

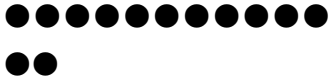
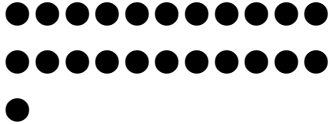
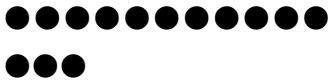

取りまとめシートの内容「討議テーマ4」

E グループ	杉本 河村 柴田 星丸 近藤 成瀬 加藤
討議テーマ 安心で愛着のもてる「住みやすいまち」にするには？	
<ul style="list-style-type: none"> ・不特定多数の人にも多治見を知ってもらう努力をする ・観光PRに力を入れて人を集める(永保寺、修道院、美濃焼き、織部) ・JRの歩け歩けコースにPRして情報を出す ・市内観光バスを企画し多治見の里山を紹介する(美濃焼き、永保寺、地球村、北小木の蛭) 	
<ul style="list-style-type: none"> ・安心安全なまちづくりのため、街路灯を増やす ・地域格差のない町にする(コミュニティーバス、安全パトロール) ・シャトルバスのコースをもっと広くしてほしい(永保寺に1日、2、3回位) ・交通手段をもっと手軽に使える工夫(コミュニティーバスの路線を増やすなど) ・高齢者の方や子供、学生が安く乗れるようにする ・公共交通の整備(利用者の意見を聞いて路線を決める) 	
<ul style="list-style-type: none"> ・多治見の歴史など、文化を子供たちに継承していけるようにする ・子供たちにもっと本を読ませる環境にする(多治見に馴染めるように) ・若い人たちの力をもっと行政に活用すべきです ・積極的な環境事業 	
<ul style="list-style-type: none"> ・駅周辺の商店街に若い人たちがいける商業施設の誘致 ・道路整備を行い、渋滞を解消する ・道路に並木をつくる ・緑のあるまちづくり(山を削り宅地にするのはやめてほしい) ・E C Oなまちづくり(自前の太陽光発電をつくり市民の電気代を安く) 	
<p>まとめ1欄</p> <p>観光PR、多治見の名所めぐりバスツアー</p> <p>携帯ゲームによるスタンプラリー</p> <p>観光に伴い、市民の美化意識が進み活性化につながる</p>	<p>投票</p> <p>●●●●●●●●●●●●●●●●</p> <p>●●●●●●●●●●●●●●●●</p> <p>●●</p>
<p>まとめ2欄</p> <p>交通整備、コミュニティーバスの充実、渋滞の緩和、防犯灯の増設により明るいまちにする</p>	<p>投票</p> <p>●●●●●●●●●●●●●●●●</p>
<p>まとめ3欄</p> <p>子供たちが安心して住めるまち 伝統文化の継承をすすめる(語り聞かせる)</p>	<p>投票</p> <p>●●●●●●●●●●●●●●●●</p>
<p>残したい意見</p> <p>緑が多い、E C Oなまちづくり 自然を残し、太陽光発電を増やす</p> <p>E C Oに関心のある企業誘致</p>	<p>投票</p> <p>●●●●●●●●●●●●●●●●</p>

取りまとめシートの内容「討議テーマ4」

<p>F グループ</p>	<p>栞田 宮嶋 宮島 加藤 酒井 木村 稲ヶ部</p>	
<p>討議テーマ 安心で愛着のもてる「住みやすいまち」にするには？</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・多治見の陶器などを駅の近くに展示する ・駅のまわりに大きな公園、または日陰のあるゆったりとした公園があると良い ・人が集まるショッピングモールを作り陶器も取り入れる ・多治見駅の前に、茶碗他、毎日イベントをして人を集める ・多治見を紹介する場を作る ・多治見をPRするため、駅の一部に、キャラクター、陶器の販売コーナーの設置 ・多治見の名物を紹介できる場所を、いまより駅に近くしたい ・古い市街地域、お祭りなどを紹介する ・リサイクル、リユースの実態を把握し、ECOな市をアピール ・ソーラーパネルの助成を奨励し、ECOなまちを目指す ・暮らしやすさ、愛着のあるまちにするには、行政、財政がしっかりしていて、はじめてすみやすくなる。そのためには陶器のまち多治見をPRする(一番暑いまちではなく) ・「勝手に掃除し隊」というイベントを作って清掃(参加してくれた家族にはゴミ袋がもらえる) ・納豆の消費量が全国何位とかの上位になるものを探してアピールする ・市民の声を聞くルートを確実にする ・広報誌の一部に市民の要望の欄を作る(広報誌の充実) ・交通の便を良くし、イベント等に参加しやすくしてほしい ・バス停に番号を振ってチラシにいかす ・バスの回数を増やし、バスの利用者には無料チケットを配布 ・多治見市の交通の不便なところにまわしてほしい 		
<p>まとめ1欄 市民がコミュニケーションをするために魅力的な駅にして、イベント等をして人を集める(公園、多治見名物の販売)</p>	<p style="text-align: center;">投票</p> <p style="text-align: center;">●●●●●●●●●●</p>	
<p>まとめ2欄 市民がイベントを作り、イベント参加者には特権をつける</p>	<p style="text-align: center;">投票</p> <p style="text-align: center;">●●●●●●●●●●●●●●●● ●●●●</p>	
<p>まとめ3欄 市民が参加しやすいように、交通網の整備をする</p>	<p style="text-align: center;">投票</p> <p style="text-align: center;">●●●●●●●●●●●●●●</p>	
<p>残したい意見 暑い多治見をアピールするためにソーラーパネルの助成を奨励し、ECOなまちを目指す</p>	<p style="text-align: center;">投票</p> <p style="text-align: center;">●●●●●●●●●●</p>	

取りまとめシートの内容「討議テーマ4」

G グループ	吉田 福田 太田 波多野 大地 田中 水谷
討議テーマ 安心で愛着のもてる「住みやすいまち」にするには？	
<ul style="list-style-type: none"> ・何か多治見でしかないものを作ってPRして、たくさんの人が来てもらえるまちにする ・多治見のコンセプトをつくる ・多治見市のPRを考え直す ・住みやすいまちづくりのための、多治見市との合言葉を提案する(明るく楽しい元気の良い多治見) 	
<ul style="list-style-type: none"> ・市民等議会を開く回数を増やし、考えるチャンスを多くの人に与える ・今回の会は試みとしては大変良いと思います。今後のやり方など回数を重ね、改善してほしい ・人材確保の窓口(登録制) ・公共交通機関の充実 ・駅は集める路線だけではなく、ループする路線をつくる ・何でも相談できる場所を提供してほしい 	
<ul style="list-style-type: none"> ・住みやすいまちにするため、きれいまちにし、人が来てくれる施設をつくる ・公園等のスペースに休憩できる場所をつくる(風よけ、日よけ) ・子供に昔話などを聞かせ、コミュニケーションを図る ・多治見市役所支所業務の見直し(今は事務手続きのみの感じあり) ・市と町内の関係をもっと明確にしてほしい ・地域力、自治力、自分達力が優れているまちづくり ・地域の人たちが仲良くなるように自分の家の周りに木や花を植え、環境を良くする様に心がける ・自然環境保全をどのようにやるか実行計画を示してほしい 	
まとめ1欄 多治見市の強みがわかりやすいキャッチフレーズの作成	投票 
まとめ2欄 市民等議会を開く回数を増やし参加するチャンスを多くの人に与え、その内容と人をデータベース化する	投票 
まとめ3欄 公共交通機関の充実、桔梗バスの充実、ループ化	投票 
残したい意見 市役所、支所の業務の見直し 町内会のレベルアップ	投票 

第3章 たじみ市民討議会の検証と評価

I. たじみ市民討議会の有効性

たじみ市民討議会は、参加者の無作為抽出や参加者への謝礼の支払いなど特徴とするドイツの市民参加の手法であるプラヌクストツェレに学びながらも、今回多治見市において実施するにあたり、市との協定の締結や多治見青年会議所による企画・運営など、さまざまな工夫を行った。

今回のたじみ市民討議会の効果と手法について検討と評価を行った結果、その有効性が明らかになった。(検証と評価の詳細は第3章IVに記載)

今回の取り組みの最大の成果は、たじみ市民討議会への参加を承諾し、すばらしい話し合いと質の高い提案を行った市民に出会えたことだといえる。

1. 効果のまとめ

検証・評価の結果、次のとおり、たじみ市民討議会の効果が明らかになった。さらに、参加を承諾し、あるいは都合がよければ参加したいという市民が予想を超えて多数あり、多治見市においては、この手法を継続して実施できる条件を備えていることが証明された。

(1) 質の高い提案

参加者の質の高い話し合いにより、話し合いの結果である提案の内容が、市民や地域で実施すべき課題と行政で実施すべき課題とが区別されており、それぞれ実現可能性が高いものとなっている。このことから、多治見市の施策に反映すべき内容を備えた質の高い提案が期待できる。

(2) 参加者の高い満足度

参加者アンケートに示されるように、たじみ市民討議会の参加者の88%が参加してよかったと回答している。また今後、市民討議会や他の市民参加の試みに参加したい、および都合があれば参加したいという参加者が98%であったことから、今後この取り組みを継続することが期待される。

(3) 参加意識の高まり

参加者アンケートにおいて、「自分から参加する場を求めることが無かったのでよい機会を与えてもらった」「私たち市民ができることから実行していくことが大事」などの意見が多数寄せられた。このことから、たじみ市民討議会の取り組みにより、自分たちのまちは自分たちがつくるといふ参加意識が高まったといえる。

(4) 参加を承諾した市民の多さ

無作為抽出により、1,000通参加依頼書を送付し、62人という多数の市民から参加の承諾を得たため、多治見市においては、たじみ市民討議会による市民参加の手法の実施が今後も可能であるといえる。

2. 手法のまとめ

「多治見版」プランニングツェレであるたじみ市民討議会の実施にあたり、さまざまな工夫を行った。その結果、プログラム設計、実施における協定、運営組織、スタッフ、無作為抽出による参加者募集や参加者への謝礼、広報、中間報告会など、あらゆる面において、概ね評価できるものとなった。

また、昨年、市民討議会に参加された一般市民の方が7名、ボランティアスタッフとして企画・運営に参加していただいたことで、市民参加の手法として評価できるものとなった。

II. たじみ市民討議会の手法の特徴 ～プランニングツェレとの比較で～

たじみ市民討議会は、ドイツの市民参加の手法であるプランニングツェレに学びながらも、今回多治見市において実施するにあたり、さまざまな創意工夫を行った。その特徴は、次のとおりである。

1. 実施に関する協定の締結

たじみ市民討議会は、明るい豊かな社会を築くこと目的とした(社)多治見青年会議所と、市民参加と協働のまちづくりを推進する多治見市とが、たじみ市民討議会の実施およびその手法の効果の検証・評価に関し、(社)多治見青年会議所と多治見市との間の関係や役割分担、相互協力の内容などを定めるため、2010年5月に「Heart of Tajimiーたじみ市民討議会2010ー」の実施に関する協定書を締結し、協働で開催した。(プランニングツェレでは行政機関と大学研究所等との委託契約により実施する。)

2. (社)多治見青年会議所と多治見市と市民による企画・運営

たじみ市民討議会の企画・運営(テーマ設定を含む)は、(社)多治見青年会議所、多治見市とボランティアスタッフ(昨年、市民討議会参加市民)によって行われた。その構成は、(社)多治見青年会議所、社会開発委員会11名と多治見市役所職員で4人とボランティアスタッフ7名である。(プランニングツェレでは、行政機関がテーマ設定を行い、当日のプログラムの企画や運営は受託者が行う。)

3. 完全無作為抽出による参加の呼びかけ

たじみ市民討議会では、20歳以上の市民を対象に無作為抽出を行い、1,000人に参加依頼書を発送した。この無作為抽出の手法は、プラーヌクスツェレと同様であり、国内では全国に先駆けて(社)東京青年会議所千代田区委員会によって行われた手法である。

締め切り日までに送られてきた参加者承諾書は昨年を超えて62人となり、当初予定していた参加者数50人を上回った。(当日参加者数は47人。)

4. 話し合いの方法

話し合いの方法は、プラーヌクスツェレとほぼ同様である。その特徴の1点目は、1グループ6、7人の単位で、全部で7グループが同時に話し合いを進めたことである。小人数のグループ分けは、話し合いを行う場合に黙っている人が少なく、話し合いのテンポを上げるためである。2点目は、意見の偏りを防ぐために、テーマごとにグループのメンバーが入れ替わり話し合うことである。3点目は、グループの話し合いにより出された意見をグループ内で3つ以内にまとめることである。4点目は、各グループの代表者により発表が行われ、全体の意見の傾向を見るために、グループでまとめた個々の意見に対して参加者が投票を行うことである。

5. 参加意欲を促す工夫

たじみ市民討議会は、多治見市において昨年が続いて2回目の取り組みであり、市民に知られていないものであった。そこで無作為抽出による参加者を集める工夫として、2つのことを実践した。第1はPRにさまざまな手法を用いたことである。ポスターの配布、広報たじみでの案内、(社)多治見青年会議所と多治見市のホームページでの案内、新聞・テレビへのプレスリリースなどを行った。第2は参加依頼書にも工夫を凝らした。封筒の中の書類枚数は最小限にし、主催者を記載するとともに、市民討議会の内容を分かりやすくチラシ風に作成し、必ず見てもらえる工夫をした。

6. 検証と評価

たじみ市民討議会という手法を、今後の市民参加や協働の取り組みにいかすために、参加者へのアンケートやたじみ市民討議会の実践を踏まえ、(社)多治見青年会議所でこの手法の効果の検証と評価を行った。検証と評価にあたっては、評価できる点、改善すべき点などについて具体的に検討した。その結果については、本報告書の第3章IVの検証と評価に掲載している。

たじみ市民討議会 2010 と プラークンクスツェレ の 手法 の 比較

	たじみ市民討議会	プラークンクスツェレ
主 催 者	(社) 多治見青年会議所、多治見市 (実施における協定)	ヴタパール大学・市民参加手法研究 所など *行政機関からの委託を受けて実施
テーマの設定者	(社) 多治見青年会議所、多治見市 ボランティアスタッフ	行政機関
テ ー マ	～私たちでつくる安心、愛着のもて る「住みやすいまち」たじみ～	都市計画、交通対策、住宅計画、 社会政策、消費者の保護対策のガイ ドラインづくりなど
参加者の選出方法	無作為抽出	無作為抽出
参加者の対象年齢	20歳以上	18歳以上
参 加 者 数	47人 (6、7人×7グループ)	25人 (5人×5グループ)
謝 礼 の 有 無	有	有
開 催 日 数	2日間 (計4回の話し合い)	4日間 (計16回の話し合い)
1 回 の 話 し 合 い 時 間	60分 (情報提供は含まない)	90分 (情報提供を含む)
話し合いのための 情 報 提 供	有	有
進 行 役	各グループに補助係を2名配置 (話し合いには加わらない)	全体で2人の進行役を配置 (話し合いには加わらない)
話 し 合 い 結 果 の 行 方	市民提言	市民答申

(参考) ドイツの新しい市民参加「プラークンクスツェレ」

(篠藤明德、地域社会研究第11号プラークンクスツェレ特集号所収)

7. 当日のスタッフの役割

市民討議会の実施にあたり、万全を期すためにたじみ市民討議会当日のスタッフを多く配置した。当日のスタッフとして、補助係、タイムキーパー、全体進行係（司会）、受付などの係を置いて実施した。（プラーヌンクスツェレでは、より少人数で実施している。）

（1）補助係

参加者が話し合いを進める際に、進め方やねらいの説明や、参加者の話し合いが行き詰まった時に話し合いのサポートをする役割（1グループに1人配置）。なお、話し合いには加わらない。

（2）タイムキーパー

時間を伝える役割

（3）全体進行係（司会）

集合時間など参加者全員に案内を行うため、館内放送をする役割

（4）受付

参加者・オブザーブ・情報提供者・報道関係者の受付、昼食用の弁当の配布その他庶務全般を行う役割。

（5）その他

運営・進行責任者・案内係・カメラ、ビデオ係など

たじみ市民討議会 スタッフ係一覧表

番号	担当	人数	番号	担当	人数
1	主催者・責任者	2人	9	カメラ係	3人
2	運営・進行責任者	2人	10	タイムキーパー	1人
3	補助係	14人	11	受付	5人
4	司会	1人	12	模造紙移動係	3人
5	会場外案内係・駐車場整理	4人	13	弁当係	4人
6	会場内案内係	2人	14	映像係	2人
7	情報提供対応係	2人	15	備品係	3人
8	ビデオ係	3人	16	計	51人

* 2つ以上の担当を兼務する場合がある。

Ⅲ. 開催準備から報告書提出までの記録

開催準備から報告書提出までの活動は、次のとおりである。

日付	時間	活動内容	作業内容
2009. 10.15	14:00～	市民討議会開催に向け市へ共催の働きかけ 及び事業趣旨説明	
11.20	14:00～	多治見市共催の承諾	
2010. 1.26	15:00～	無作為抽出・参加者謝礼・参加予定人数に 関する検討・決定	
2.25	19:00～	第1回市民討議会実行委員会 ・市民討議会説明会	
3.5	10:00～	第2回市民討議会実行委員会 ・コマ数について、大枠のテーマ決め	
3.15	10:00～	第3回市民討議会実行委員会 ・テーマ決め	
3.31	10:00～	第4回市民討議会実行委員会 ・テーマ決め（小テーマ）	
4.8	10:00～	第5回市民討議会実行委員会 ・テーマ決め（小テーマ）	
4.15	10:00～	第6回市民討議会実行委員会 ・テーマ決定	
4.26	10:00～	第7回市民討議会実行委員会 ・設営の振り分け・役割について	
5.12	19:00～		参加依頼書封筒詰め
5.13	15:00～	実施における協定の締結（調印式） 記者発表（多治見市役所、特別会議室にて）	
5.14	10:00	・参加依頼書発送	
5.21	10:00～	第8回市民討議会実行委員会 ・情報提供の検討	
5.31	19:00～	参加依頼書返信受領締め切り	
6.2	10:00～	第9回市民討議会実行委員会 ・当日の流れについて	
6.4	19:00～	リハーサル3回目	パワーポイント作成
6.8	12:00～	参加者に開催案内発送	開催案内封筒詰め

6.10	13:00～	マスコミへの市民討議会取材の案内	
6.10	19:00～	・リハーサル4回目 ・プレ模擬ディスカッション1回目	パワーポイント修正 備品作成
6.19	19:00～	・リハーサル5回目（市の担当者を交え） ・プレ模擬ディスカッション2回目 ・参加者体調確認と、身体に不自由な方がいる場合の対応準備	パワーポイント修正 備品作成
6.25	19:00～	・リハーサル6回目 ・プレ模擬ディスカッション3回目	
6.25	18:00～	最終リハーサル	
6.26	13:00～	本番1日目	
6.27	9:30～	本番2日目	
7.8	19:30～	中間報告会に向けての準備①	実施報告書の作成
7.16	19:30～	中間報告会に向けての準備②	実施報告書の作成
7.27	19:30～	中間報告会に向けての準備③	実施報告書の作成
8.9	19:30～	中間報告会に向けての準備④	実施報告書の作成
8.11	19:30～	中間報告会に向けての準備⑤	実施報告書の作成
8.12	19:30～	中間報告会に向けての準備⑥	実施報告書の作成
8.14	10:00～	中間報告会 提言決定	
8.20	19:30～	実施報告書の作成	実施報告書の完成
9.10	13:00～	提言書提出式の記者案内	
9.30	11:00～	提言書提出・実施報告書提出	

IV. 検証と評価

ここでは、参加者へのアンケートやたじみ市民討議会2010の実践を踏まえ、評価と検証を行った結果について述べる。評価と検証にあたっては、評価できる点、改善すべき点などについて具体的に検討し、課題を抽出するとともに、問題解決の方向性を示すこととした。

1. プログラムについて

テーマ設定、プログラム設計、時間配分、話し合いの体制、情報提供、投票に関しては、参加者の話し合いのレベルが高いこともあり、概ね良好な結果を得たといえる。しかし、話し合いのテーマ設定方法および情報提供の内容について、改善すべき課題が残った。

(1) テーマ設定

参加者に興味・関心があり、まちづくりに対して自由なアイデアや議論していただくために(社)多治見青年会議所と多治見市とボランティアスタッフでテーマについて検討した。市民の関心の高いまちの課題を抽出するために、市民討議会実行委員会を開催し市民の生の声を聞き、その他の意識調査報告書や地区懇談会での結果を調査した。その結果、現在の市民が求めている、“住みやすいまち”をもとに、～私たちでつくる安心・愛着の持てる「住みやすいまち」たじみ～を大テーマとし開催することに決定した。その後の協議の中で、「住みやすいまち」にするためには、「安全」・「安心」・「誇り」・「愛着」の4つのキーワードが会議で決まり、①安心な生活をするために地域・家庭でできる防災対策とは？②市民がまちに誇りと愛着をもつためには？③これからはどのような地域コミュニケーションの在り方が必要ですか？④安心で愛着のもてる「住みやすいまち」にするには？について話し合っていたこととした。

今後、テーマ選定においては、その時々市民が感じるまちの課題をテーマ選定に反映させるためにも、多種多様な市民を含めた公平・中立な実行委員会を設立することも重要な課題である。

評価できる点	・ 市民にとって関心の高いテーマであった点 ・ 自由なアイデアが出しやすいテーマであった点
改善が必要な点	・ 市民がその時事で求めているテーマを設定できる仕組みをする点

(2) 時間配分

全体の時間や各回の話し合いの時間がどの程度なら市民が参加しやすいかについて議論を重ねた。参加者の年齢が広範に及ぶことが想定され、長時間の開催による参加者離れも懸念されたが、あまり時間を短縮すると話し合いの時間が減ってしまい、満足のいく討議ができなくなることになる。したがって、最低4回の話し合いの回数を確保しつつ、参加者の負担を考慮し、話し合いの時間を60分に決定した。また、全体的な配慮としては、休憩時間を定期的に

取り入れたこと。休憩場所も次の討議がスムーズに行えるよう、次の話し合いグループのテーブルにてとっていただくよう工夫した。話し合いの時間（60分）についてアンケートでは「ちょうど良い」68%、「長い」23%、短い9%という結果となった。

評価できる点	・実施可能な日程の中で、一定の成果を上げることができる時間配分であった点
改善が必要な点	_____

（3）話し合いの体制

参加者主体の話し合いを進めるため、ファシリテーター（市民の話し合いの場を仕切り、事前に合意された会議のルールに沿って、円滑に成果へたどり着くよう、会議を運営する役割を果たす人）は置かず、各グループに「補助係」を2名設置し、話し合いの進め方や時間配分などの説明を行うこととした。そして参加者には各グループにおいて「進行係」「まとめ係」「発表係」の役割を担うこととした。

参加予定者は50人であったが、当日の参加者は47人であったため、1グループにつき6、7人で構成した。グループの人数についてアンケートでは、89%の人が「ちょうど良い」と答えている。（「少ない」4%、「多い」7%）

また、いわゆる「声の大きい人」だけが発言するのではなく、参加者全員が均等に発言できるよう、テーマごとに話し合いグループのメンバーを入れ替えることとした。このグループ分けについては1日目の受付の段階で、各話し合いごとのテーブル座席表を名札に記入した。このため、席の移動はスムーズに行われた。

「補助係」は参加者に話し合いの方法・ルールを説明するため、各グループ間に違いが生じないように、マニュアルを作成し、何度も模擬ディスカッションを重ねイメージを共有させた。また、参加者が、話し合いをスムーズに進めるための環境づくりとして、「話し合いの流れ」「話し合いのルール」を明記した模造紙を見やすい場所に掲示した。そして、「進行係」「まとめ係」「発表係」のマニュアルを作成し、テーブルの上に配置していつでも確認できるようにしたことで、話し合いのイメージをもってもらえた。

以上のように、いかに参加者全員がスムーズに話し合いに参加できるか、ということに重点を置いてきたが、回を重ねるごとに参加者同士が積極的にコミュニケーションをとり、多くの意見を出そうと工夫する姿が見られ、市民討議会という手法に大きな可能性を感じた。

評価できる点	・参加者の意識が高く、進行がスムーズであった点 ・各係のマニュアルを作成し模擬ディスカッションを重ねることにより、話し合いの流れの統一を図った点
改善が必要な点	_____

(4) 情報提供

情報提供者は、参加者の現状や課題の認知度に差があるため、公平・中立な立場で行う必要があった。今回のテーマに沿って実際に関わりが深く、現状を一番把握しているということで行政担当者また文化振興事業団の方に決定した。率直な意見、アイデアが出る話し合いをしていただくため、現状までの取り組みの説明と現段階での課題を紹介した。

情報提供者は、各テーマにおける行政の担当者と文化振興事業団の方であったため、映像を用いた詳しい説明があり、参加者には理解しやすい内容で、話し合いの参考になった。また、情報提供の時間についてはアンケートで「ちょうど良い」60%「長い」23%「短い」17%という結果になっており、情報提供の時間については検討の必要があるといえる。

評価できる点	・行政担当者による映像を使った説明で、理解しやすかった点
改善が必要な点	・情報提供内容や時間について綿密な打ち合わせが必要である

(5) 話し合いの内容と投票

当初、各グループの話し合いの結果において、ハード面に特化するのではないかと考えていた。しかし、結果は参加者同士がそれぞれのテーマにおける意図をよく理解し、地域においての課題と行政で実施すべき課題についての討議が活発になされ、それぞれ実現可能性が高い意見が多く出された。参加者同士のコミュニケーションもよく図られ、すばらしい話し合いとなった。

投票の方法については、各グループで3つの意見と残したい意見にまとめ、参加者全員がシール（1回の投票につき7枚）を使用し、賛同する意見に投票することで、傾向をつかむ方法を取った。また、テーマごとに行うグループの発表はプレゼンテーションの仕方での投票が左右する事が考えられるため、3つのまとめた意見と残した意見の読み上げだけとした。

評価できる点	・話し合いの内容が充実し、実現可能性が高い意見が出された点 ・発表をまとめた意見の読み上げのみにすることで、発表者のプレゼンテーションの仕方でも左右されることなく公平な投票が行えた点
改善が必要な点	_____

2. 運営について

実施に関する協定、運営組織、スタッフ、スケジュールについても良好な結果であった。たじみ市民討議会は、(社)多治見青年会議所と多治見市とが実施に関する協定にもとづき、両者が実施した。本年度は(社)多治見青年会議所と多治見市の運営組織に加え、新たにボランティアスタッフが運営に参加したことで市民主導の市民討議会に一步、近づいたといえる。

(1) 実施に関する協定

たじみ市民討議会は、2010年5月に(社)多治見青年会議所と多治見市とが実施に関する協定を締結し、協働で開催したものである。

実施に関する協定において、両者の役割と責務を定めたが、(社)多治見青年会議所の役割は、①運営、②広報活動、③報告書の作成、④個人情報の保護、⑤経費負担とし、多治見市の役割は、①広報活動、②参加市民のリストの抽出及び参加依頼、③情報提供、④場所の提供、⑥経費負担、⑦報告書の検討とした。

今回のたじみ市民討議会では、実施に関する協定の締結によって、お互いの役割・責務を明確にすることができたことは評価できる。

評価できる点	・実施に関する協定により、(社)多治見青年会議所と多治見市の役割、責務を明確にした点
改善が必要な点	_____

(2) 運営組織、スタッフ

たじみ市民討議会の運営組織は、実施に関する協定にもとづき(社)多治見青年会議所と多治見市で行った。プログラム設計や、テーマ設定、当日の運営などは協議した。事前準備は6ヶ月前から、打合せを重ね本番前にスタッフを中心としたリハーサルやプレ模擬ディスカッションを経たことにより、全く経験のない運営スタッフが参加者の立場で考え運営することができた。

また、本年度は、新たにボランティアスタッフが運営に参加したことで市民主導の市民討議会に一步、近づいたといえる。

評価できる点	・リハーサルの入念な実施により、運営スタッフが的確に行動できた点 ・ボランティアスタッフが運営のスタッフに加わった点
改善が必要な点	_____

(3) スケジュール

今回のたじみ市民討議会の事前準備は6ヶ月前から開始した。ポスターの作成・配布、無策抽出、郵送する印刷物の作成などを考慮すると6ヶ月の準備期間は妥当な期間と評価できる。

評価できる点	・綿密な準備期間が取れた点
改善が必要な点	_____

3. 参加者について

今回のたじみ市民討議会の特徴は、「無作為抽出」による市民参加と「参加者への謝礼」であるが、現実的には、さらに「当日の参加人数」という課題が加わる。したがって、この3点を中心に検証と評価を行う。

(1) 無作為抽出方式の人選

たじみ市民討議会終了後のアンケート結果にて、無作為抽出方式については、「無作為抽出はよい手法だと思う」に79%の回答が得られた。自由回答欄においても、「意見が偏らないから」「幅広い年代の意見が聞ける」「これまで関心の無かった人にも関心を持ってもらえる」などの意見があった。

従来の公募型では、元気で意見を持った市民が参加する一方で、普段声を出さない市民の意見を反映させることは難しいと思われる。無作為抽出方式はこのサイレントマジョリティーと呼ばれる市民の声なき声を抽出する手法として有効であったといえる。

また、男女比率、年齢比率、地区等の構成において当初偏りが懸念されたが、当日はかなりバランスの取れた構成になった。

評価できる点	・無作為抽出方式において、支持を得られた点 ・男女比率、年齢比率等のバランスが良好であった点
改善が必要な点	_____

(2) 参加者への謝礼

参加者への謝礼について、アンケートでは「あったほうがよいと思う」71%、「ないほうがよいと思う」12%「その他」17%という回答を得られた。この手法の謝礼の目的としては、①本来であれば仕事である時間帯を割いて参加する市民など、さまざまな条件の人に参加してもらおうという点、②結果に対する責任を負うという点にあった。実際にアンケートの中で、「責任が感じられてよい」といった意見があり、目的を十分に理解していただけたと感じることができた。今回の事例により、有償による市民参加のかたちを提示できたことは評価できる。

評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> ・有償による市民参加のかたちを提示できた点 ・自分の意見に対して責任を持っていただけたこと
改善が必要な点	_____

(3) 参加者人数

たじみ市民討議会を開催するにあたり、呼びかけに対し何人の参加者があるかについては、今後も課題となる。結果として、62人の参加承諾を得られ、当日は47人の市民が参加し、提案を出すことができたことは、新たな市民参加の成果として評価できる。また、アンケートでも「都合が合えば参加したい」が67%と大半を占めていることから、テーマや日程を工夫することで、参加者の増加が期待できる。

評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> ・参加承諾者が予想以上であった点 ・まちづくりに対する市民の関心が高い点
改善が必要な点	_____

(4) 参加者の反応

開始早々は参加者にとって初めての手法ということもあり、手探り感が見受けられたが、時間の経過と共に、参加者が積極的に意見を出し合いまとめる姿が見られ、参加者の意識の高さを実感した。アンケートでも、88%の参加者が参加して「よかった」と回答しており、自由解答欄では、「多治見市の課題について再認識できた」「自分から参加できる場を求める事が無かったので、よい機会になった」「まちの良いところや課題が再認識でき、無関心はよくないと思った」などがあり、参加者のまちづくりに対する参加意識が高まったといえる。

参加者が満足感を持って、たじみ市民討議会に参加し、また参加意識が高まることから、今後とも継続して市民討議会を効果的に実施することが可能であることがいえる。

評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者の高い満足度が得られた点 ・自治の考えを持ち、行政への参加意識が高まった点
改善が必要な点	_____

4. 広報について

広報活動については、ポスターの配布、ホームページで告知、メディアへの対応の3つの手法で行い、その成果は次のとおりである。

メディアの反応	新聞4紙掲載、市報 (Tajimist)
問い合わせ	_____
両日の来場者	見学者21人 (他市役所5人、多治見市議会議員6人、一般10人)、 報道関係者4社

(1) ホームページ

ホームページの広報については、(社)多治見青年会議所と多治見市の双方のホームページで告知した。開催目的のページや「市民討議会とは」という分かりやすい市民討議会の手法の説明をし、ホームページを見る方に分かりやすく、興味・関心をもってもらえるよう工夫した。

評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> ・主催者の双方で告知ができた点 ・分かりやすく、関心を持ってもらえるよう工夫ができた点
改善が必要な点	_____

(2) ポスター

ポスターは200枚印刷し、多治見市文化会館やまなびパークをはじめとする公共施設や集客力のあるスーパーやコンビニ等に掲示した。ポスターの内容に市民討議会とはどんなことをするものなのかを写真等で分かりやすく表現するとともに、市民討議会が開催されることを強調し、詳しくはホームページを見て詳細を分かるようにするため、ホームページへの誘導ができる工夫をした。

評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> ・人目につきやすい場所にポスターを掲示した点 ・ホームページへの誘導ができるよう工夫した点 ・昨年より、ポスターの枚数を増やした点
改善が必要な点	_____

(3) メディア対応

プレスリリースを行った先は15ヶ所、そのうち記事や放映などの反応があったのは、毎日新聞、中日新聞、岐阜新聞、東濃新報、である。

記者の反応は好評を得ており、その理由として実施に関する協定の調印式での記者発表だけでなく当日も取材されたことが挙げられる。しかもある程度大きい枠で掲載されたことは、メディアの関心の高さが伺われる。

評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> ・協定の調印式など開催前のメディアに対するアプローチができた点 ・基本的にオープンとし取材をOKにした点
改善が必要な点	_____

5. たじみ市民討議会開催後の取り組み

ここでは、たじみ市民討議会開催後の取り組みとして、中間報告会、実施報告書の作成について述べる。なお、中間報告会や報告書の作成については、概ね評価できる内容となった。

(1) 中間報告会

たじみ市民討議会開催から1ヶ月後8月14日(土)、市民提言として提出する提言書の方向性を参加者に確認してもらう機会として中間報告会を開催した(中間報告会の参加者47人中16人出席)。中間報告会では、話し合いの結果を分析してまとめたものを中間報告書として参加者に提示した。分析結果の報告とともに、分析の方法とルールを明確にしておくことが大切であるとする。なお、分析結果を説明し、質疑を行った上で提言書の内容が参加者に了承された。

評価できる点	・話し合いの結果を分析し、その内容を中間報告会で参加者に確認していただいたことで、分析の客観性が高まった点
改善が必要な点	_____

(2) 実施報告書

たじみ市民討議会の実施報告書の構成については、(社)多治見青年会議所において、早い段階から検討されていたが、「話し合いの結果」と「手法の効果の検証・評価」を含め編集することとした。

評価できる点	・アンケート等の資料を使って客観的に分析ができた点
改善が必要な点	_____

第4章 展望

2010年6月26日・27日に開催した「Heart of Tajimiーたじみ市民討議会2010ー」は、参加予定人数50人に対して参加承諾者は62人であった。当日は参加者の都合等により、47人で実施された。驚くべきことは各テーマに対し、参加者が多角的に考え、行政に求める問題と、自分たち地域の問題とを区別し、意見をまとめていったことである。「市民主体による協働のまちづくり」実現にこの手法が有効であると実証されたことから、今後も継続していかなければならない行政への「市民参加」の機会であると感じた。

完全無作為抽出による「市民討議会」の今後の可能性については幅広く期待できるが、今回は～私たちでつくる安心、愛着のもてる「住みやすいまち」たじみ～をテーマに実施した。

第3章の検証と評価でもあるように、この手法は無作為抽出にも関わらず、質の高い提案をまとめることが実証された。このことから多様な行政課題をテーマに汎用していけるだろう。

同一テーマで多くの地域（住区別等）で開催するなど、市民の声を広く拾うことを目的に様々なかたちの応用が考えられる。さらにテーマをもっと狭くして、明確な方向性が導き出せるような「判断型」の開催も考えていくべきである。

1,000通の参加依頼に対し62人の参加承諾を得た上に参加者の満足度が高く、再度参加しても良いと答えた市民が98%と高いことから継続して行うことが可能である。そして参加者は「自分たちのまちは自分たちでつくる」という行政への参加意識が高まったことから、継続的に実施することにより、まちづくりに新たな市民主導の息吹をもたらすことが期待できる。

今後は、市の基本計画の策定や改定作業などでこの手法を組み入れるなどの可能性を検討するとともに、「自分たちのまちの課題は自分たちで解決していく」という自治の原則から、運営機関側でテーマ選定を行うだけでなく、話し合いのテーマを市民からの公募にて行うなどの方法も検討していく必要がある。また同一テーマで数回開催するなど、市民の声を広く拾うことを目的に様々なかたちの応用が考えられる。

次に運営機関のあり方については、今回は（社）多治見青年会議所と多治見市との運営に加え、新たにボランティアスタッフが運営に参加したことで市民主導の市民討議会に一步、近づいたといえる。参画市民主導の参加機会にしていく「市民討議会」は、運営においても多くの市民が関わることを望ましいといえる。

最後にこの新たな市民参加の機会を継続的かつ発展的に実施し、多治見市における市民自治による協働のまちづくりが推進されることを切に願います。

Ⅱ. 今後の取り組みに関する情報提供

(社)多治見青年会議所は、多治見市へ「Heart of Tajimiーたじみ市民討議会2010ー」の報告書を提出した後も、参加者をはじめ、市民や関係者に対し、多治見青年会議所ホームページや多治見市のホームページなどにより、その取り組み状況について情報提供を行う。

- (社)多治見青年会議所の所在地とホームページ

<http://tajimijc.com/>

〒507-0831 多治見市新町1丁目23番地産業文化センター4F

TEL 0572-(23)-5229 FAX 0572-(24)-0227

- 多治見市役所秘書広報課の所在地とホームページ

his yokoho@city.tajimi.gifu.jp

〒507-8703 多治見市日ノ出町2-15

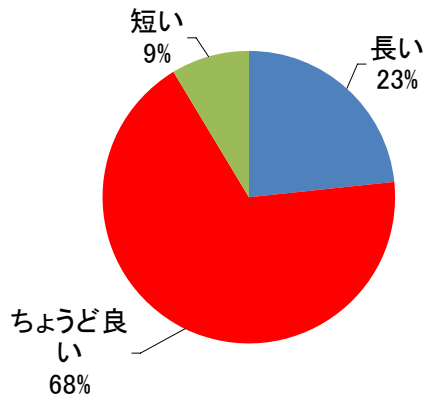
TEL 0572-(22)-1111 FAX 0572-(24)-3679

土・日曜休業

＜市民討議会アンケート結果＞

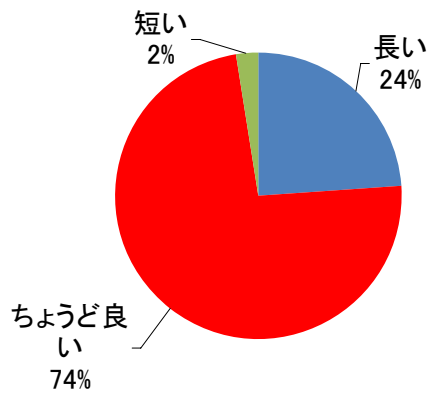
1.開催日程についてお聞かせ下さい

(質問1-1)2日間という日数について



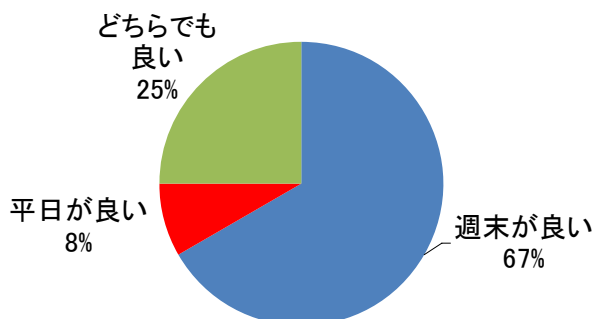
長い	ちょうど良い	短い
11	32	4

(質問1-2)1日の時間について



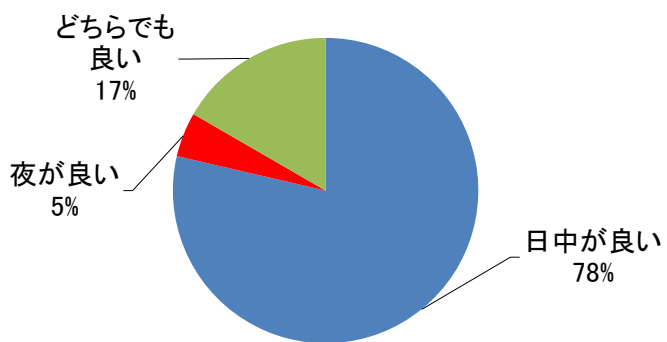
長い	ちょうど良い	短い
10	31	1

(質問1-3)曜日について



週末が良い	平日が良い	どちらでも良い
32	4	12

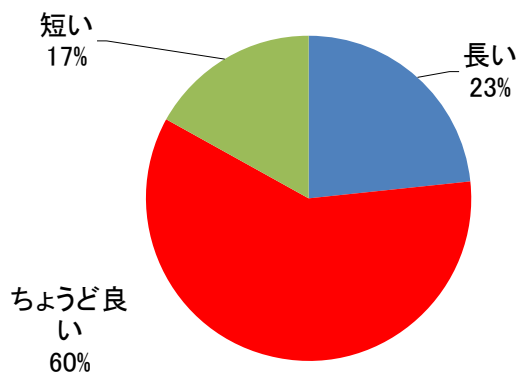
(質問1-4)時間帯について



日中が良い	夜が良い	どちらでも良い
33	2	7

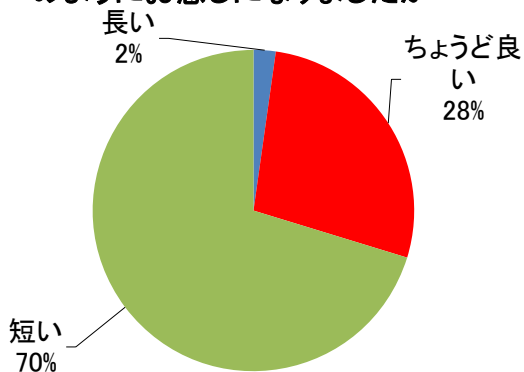
2、討議内容についてお聞かせ下さい

(質問2-1)情報提供について、時間の長さ
はどのように感じになりましたか



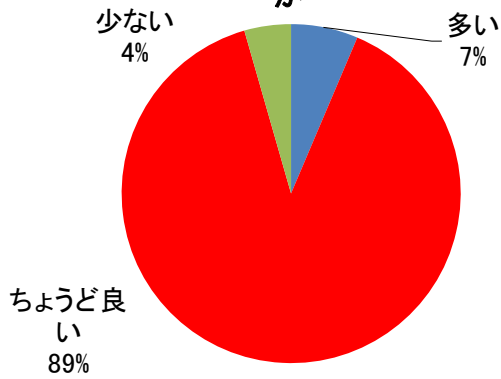
長い	ちょうど良い	短い
11	28	8

(質問2-2)討議について、時間の長さはど
のように感じになりましたか



長い	ちょうど良い	短い
1	13	33

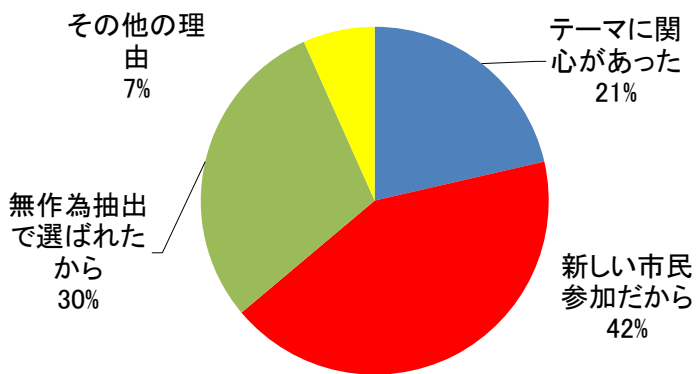
(質問2-3) 討議グループについて、
1グループの人数はどのように感じましたか



多い	ちょうど良い	少ない
3	41	2

3、参加動機についてお聞かせ下さい

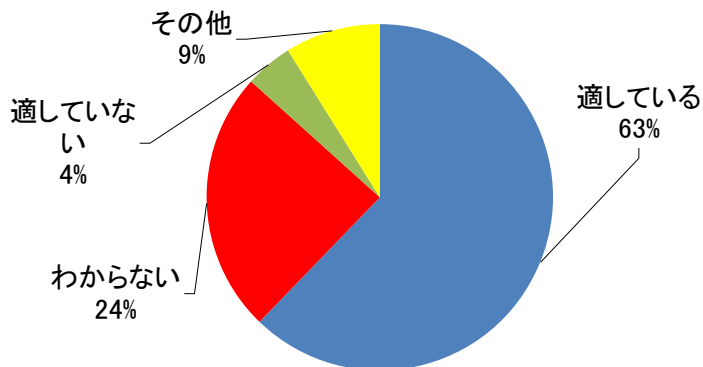
参加動機についてお聞かせ下さい



テーマに関心があった	13
新しい市民参加だから	26
無作為抽出で選ばれたから	18
その他の理由	4

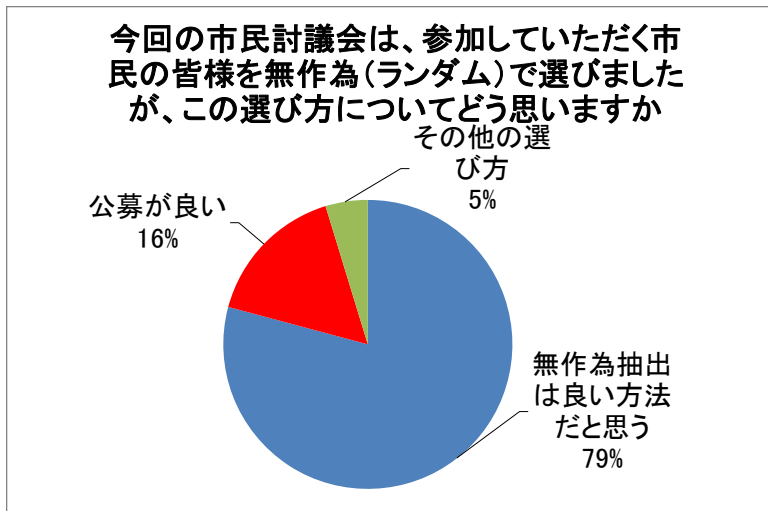
4、この市民討議会は、市民の声を行政に届ける手法として適していると思いますか

この市民討議会は、市民お声を行政に届ける手法として適していると思いますか



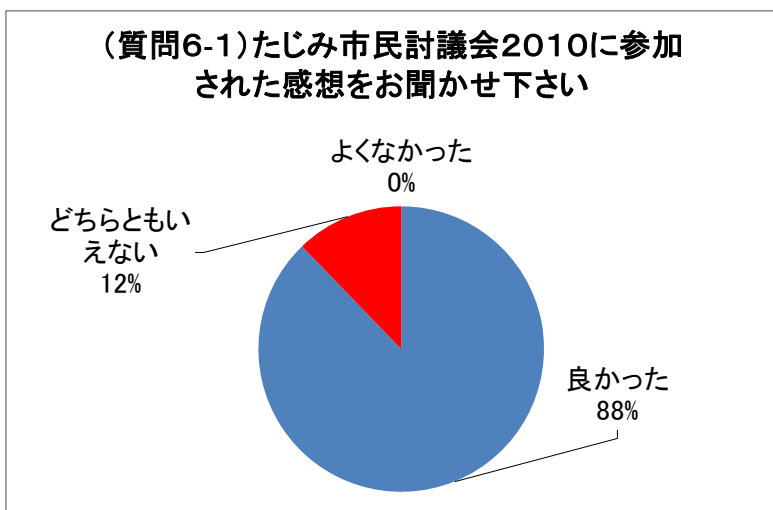
適している	28	わからない	11
適していない	2	その他	4

5、今回の市民討議会は、参加して頂く市民の皆様を無作為(ランダム)で選びましたが、この選び方についてどう思いましたか

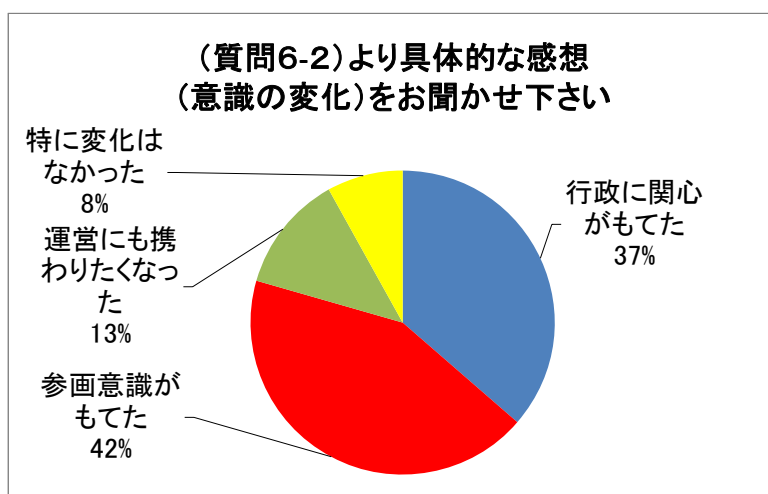


無作為抽出は良い方法だと思う	34
公募が良い	7
その他の選び方	2

6、たじみ市民等議会2010に参加された感想をお聞かせ下さい



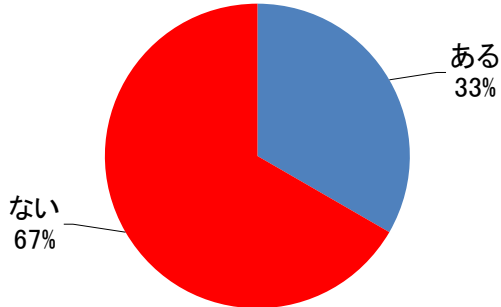
良かった	どちらともいえない	よくなかった
36	5	0



行政に関心をもてた	23
参画意識をもてた	27
運営にも携わりたくなった	8
特に変化はなかった	5

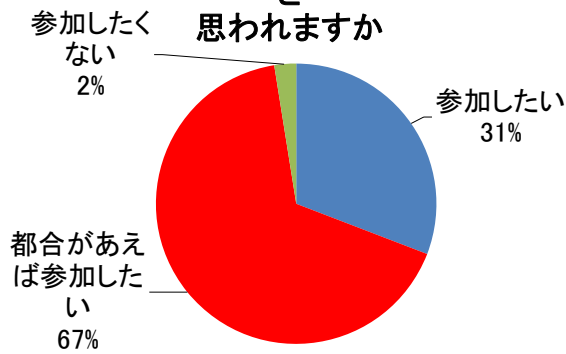
7、これまでにタウンミーティングや地区懇談会といった市が主催する市民参加の機会に参加したことがありますか

(質問7-1)これまでにタウンミーティングや地区懇談会といった市が主催する市民参加の機会に参加したことがありますか



ある	ない
14	28

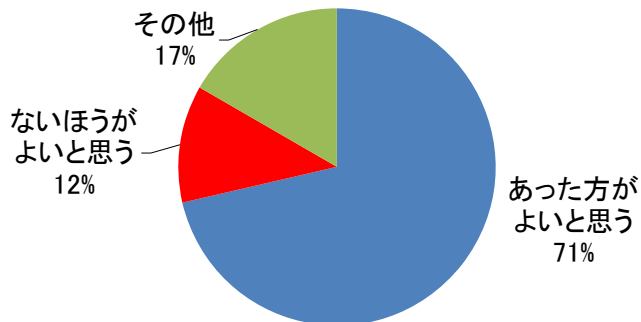
(質問7-2)市民討議会に限らず多治見市の市民参加の試みに今後もまた参加したいと思われませんか



参加したい	13
都合があれば参加したい	28
参加したくない	1

8、今回の市民討議会の謝礼についてどのようにお感じになりましたか

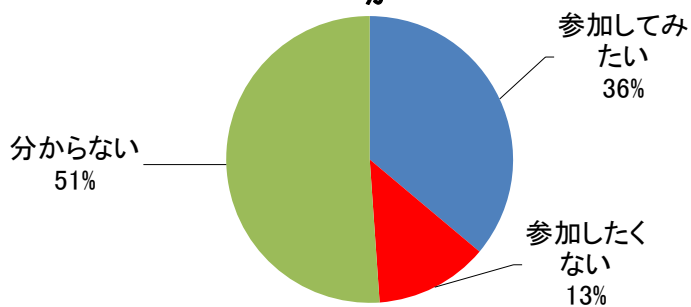
今回の市民討議会の謝礼についてどのようにお感じになりましたか



あった方がよいと思う	30
ないほうがよいと思う	5
その他	7

9、今後、この市民討議会を開催していく上で、今回参加して頂いた市民の皆様にはスタッフとしてお手伝い頂きたいと考えております。スタッフとして参加してみたいですか

今後、この市民討議会を開催していく上で、今回参加していただいた市民の皆様にはスタッフとしてお手伝い頂きたいと考えております。スタッフとして参加してみたいですか



参加してみたい	参加したくない	分からない
17	6	24

Heart of Tajimi たじみ市民討議会 2010

受付風景



主催者挨拶



趣旨・進め方 説明



情報提供 テーマ 1



情報提供 テーマ 2



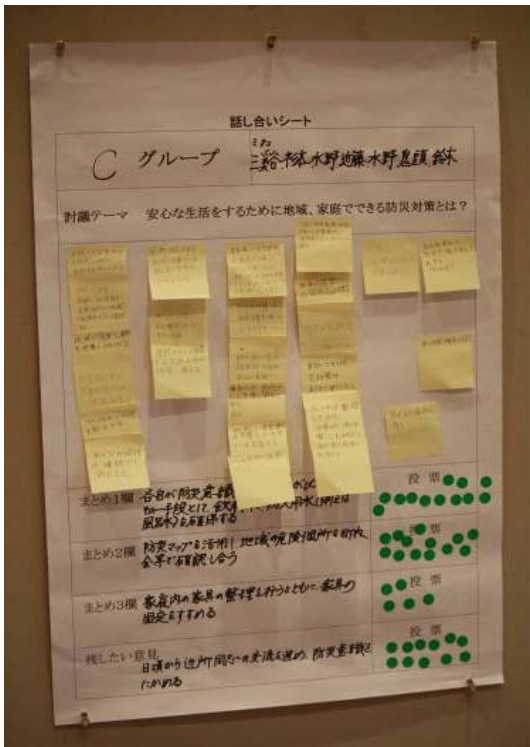
情報提供 テーマ 3



討議中



付箋記入



発表



投票



参加者感想



参考文献

● プラークンクツェレノメルクマールとその評価

(篠藤明德、別府大学短期大学部紀要第19号、2000年)

● ドイツの市町村におけるプラークンクツェレの実施

—メアブッシュ市(都市開発)とノイス市(中心市街地)の事例—

(篠藤明德、別府大学短期大学部紀要第43号、2001年)

● ドイツの市民参加「プラークンクツェレ」の進展

(篠藤明德、日経グローバルNo12、2004年)

● プラークンクツェレ—熟慮デモクラシー論の実践的アプローチ—

(後藤潤平、早稲田政治公法研究第76号、2004年)

● 「まちづくりと新しい市民参加—ドイツのプラークンクツェレの手法—」

(篠藤明德、イマジン出版、2006年)

● 「自治を担う議会改革—住民と歩む協働型議会の実現—」

(江藤俊昭、イマジン出版、2006年)

● 「無作為抽出市民による討議に関する質問票調査

—日本における討議民主主義の実証研究—

(井出弘子、日本政治学会発表、2008年)

● 「ドイツにおける公共政策への市民参加の手続き的公正さについて—レンゲリッヒ市とバイエルン州におけるプラークンクツェレの社会調査研究—」

(広瀬幸雄他、環境心理研究9、2009年)